
平成28年度
しまくとぅば県民意識調査
報 告 書

平成29年3月

沖 縄 県

目次

第1章	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査対象	1
3.	調査対象者の抽出方法	1
4.	調査期間	1
5.	調査方法	1
6.	調査項目	1
7.	回収数	1
8.	調査実施機関（事業委託先）	2
9.	集計・分析上の注意事項	2
第2章	調査結果の総括	4
1.	調査結果のポイント	4
2.	総括	7
第3章	調査結果	9
1.	調査対象者の属性	9
(1)	性別	9
(2)	年代	10
(3)	子どもの有無	11
(4)	出生地	12
(5)	居住地区	13
2.	「しまくとうば」に対する親しみ	14
3.	「しまくとうば」に対するイメージ	16
4.	「しまくとうば」に対する理解度	18
5.	「しまくとうば」講座や「しまくとうば」関連イベントの参加状況	20
6.	「しまくとうば」の使用頻度	22
7.	「しまくとうば」を使う相手	24
8.	ビジネスや公共の場での「しまくとうば」の使用に関する意識	26
9.	普段の生活の中での「しまくとうば」の必要性	28
10.	「しまくとうば」の普及に必要なこと	30
11.	子どもたちが「しまくとうば」を使えるようになることへの意識	32
12.	家庭内での「しまくとうば」への取り組み状況	34
13.	「しまくとうば」普及に関する意見	36
参考資料	調査に使用した調査票	56

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

沖縄県では、「しまくとぅば」の普及継承を重要施策と位置づけ、平成25年度に、「しまくとぅば普及推進計画（10カ年計画）」を策定し普及継承に取り組んでいる。

「しまくとぅば」は、地域の伝統行事等で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層となる言葉である。

県民の皆様の「しまくとぅば」に関する調査を行うことで、その実態を把握し、今後の「しまくとぅば」の普及に向けた課題と効果的な普及方法を検討するために本調査を実施した。

2. 調査対象

沖縄県内（離島含む）に居住する10歳～79歳の男女個人2,632人を対象とした。

3. 調査対象者の抽出方法

層化三段無作為抽出法による。抽出手順は下記のとおり。

- ①市町村別人口構成比に応じて、市町村別調査対象者数を設定
- ②2,500人回収を目標した場合、回収率95%想定で必要な調査対象者数は2,632人
- ③2,632人を市町村別人口構成比に応じて按分
- ④按分した市町村別調査対象者数を10で除し、市町村別調査員地点数を算出
- ⑤市町村内の町丁字別人口の降順に町丁字を並び替え
- ⑥市町村内の町丁字数÷調査地点数で調査地点抽出間隔を算出
- ⑦上記間隔ごとに調査地点を抽出（第1次抽出単位）
- ⑧調査地点内の世帯を系統抽出（第2次抽出単位）
- ⑨抽出世帯から調査対象者を抽出（第3次抽出単位）

市町村別人口、人口構成比、調査地点数、調査対象者数は次ページを参照。

4. 調査期間

平成29年1月12日（木）～平成29年2月12日（日）

5. 調査方法

調査員による訪問面接法で実施した。

6. 調査項目

巻末の「参考資料 調査に使用した調査票」参照

7. 回収数

有効回収数：2,630票（有効回収率：99.9%）

市町村別回収数は3ページを参照。

8. 調査実施機関（事業委託先）

株式会社宣伝・一般財団法人沖縄公共政策研究所・株式会社日本統計センター共同企業体

9. 集計・分析上の注意事項

回答者数は「n」で表記している。

集計値は、原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で、小数点第2位以下を四捨五入した値で示している。このため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

複数回答（2つ以上の選択肢を回答）は原則として100%を超える。

平成25年度に実施した「しまくとぅば県民運動推進事業県民意識調査報告書」との比較については、本調査と調査対象、調査方法等が異なるため確報値としての単純比較は難しいが、どのような推移、傾向が見られるのかという点を分析することとした。

また、平成25年度では、県内の小学校5年生、中学2年生、高校2年生を対象に調査を行い、学年別の集計を行っている。このため、本調査においても「しまくとぅば」に対する親しみ、「しまくとぅば」に対する理解度、普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性の3項目については、学年別の集計を行った。

図表1 市町村別人口、人口構成比、調査地点数、調査対象者数、回収数

市町村C	市町村名	町丁字数	住基人口 (10-70代)	人口 構成比	回収 目標数	回収 目標率	調査 対象数	→	調査 地点数	地点抽 出間隔	→	回収数
47201	那覇市	218	269,875	22.5%	561	95.0%	591	→	59	4	→	591
47205	宜野湾市	78	80,873	6.7%	168	95.0%	177	→	18	4	→	177
47207	石垣市	26	39,958	3.3%	83	95.0%	88	→	9	3	→	88
47208	浦添市	77	94,907	7.9%	197	95.0%	208	→	21	4	→	208
47209	名護市	92	50,989	4.2%	106	95.0%	112	→	11	8	→	112
47210	糸満市	44	49,279	4.1%	103	95.0%	108	→	11	4	→	108
47211	沖縄市	150	115,819	9.6%	241	95.0%	254	→	25	6	→	254
47212	豊見城市	24	51,184	4.3%	106	95.0%	112	→	11	2	→	112
47213	うるま市	83	100,603	8.4%	209	95.0%	220	→	22	4	→	220
47214	宮古島市	41	43,488	3.6%	90	95.0%	95	→	10	4	→	92
47215	南城市	48	34,918	2.9%	73	95.0%	76	→	8	6	→	76
47301	国頭郡国頭村	20	3,934	0.3%	8	95.0%	9	→	1	-	→	9
47302	国頭郡大宜味村	16	2,474	0.2%	5	95.0%	5	→	1	-	→	5
47303	国頭郡東村	6	1,494	0.1%	3	95.0%	3	→	1	-	→	3
47306	国頭郡今帰仁村	19	7,560	0.6%	16	95.0%	17	→	2	10	→	17
47308	国頭郡本部町	27	10,842	0.9%	23	95.0%	24	→	2	14	→	24
47311	国頭郡恩納村	11	8,997	0.7%	19	95.0%	20	→	2	6	→	20
47313	国頭郡宜野座村	4	4,653	0.4%	10	95.0%	10	→	1	-	→	10
47314	国頭郡金武町	3	9,180	0.8%	19	95.0%	20	→	2	2	→	20
47315	国頭郡伊江村	5	3,736	0.3%	8	95.0%	8	→	1	-	→	8
47324	中頭郡読谷村	22	34,018	2.8%	71	95.0%	74	→	7	3	→	74
47325	中頭郡嘉手納町	11	11,212	0.9%	23	95.0%	25	→	3	4	→	25
47326	中頭郡北谷町	21	24,117	2.0%	50	95.0%	53	→	5	4	→	53
47327	中頭郡北中城村	13	13,867	1.2%	29	95.0%	30	→	3	4	→	30
47328	中頭郡中城村	18	16,220	1.3%	34	95.0%	36	→	4	5	→	36
47329	中頭郡西原町	23	29,711	2.5%	62	95.0%	65	→	7	3	→	65
47348	島尻郡与那原町	4	15,430	1.3%	32	95.0%	34	→	3	1	→	34
47350	島尻郡南風原町	12	30,421	2.5%	63	95.0%	67	→	7	2	→	67
47353	島尻郡渡嘉敷村	3	529	0.0%	1	95.0%	1	→	1	-	→	1
47354	島尻郡座間味村	5	698	0.1%	1	95.0%	2	→	1	-	→	2
47355	島尻郡粟国村	3	537	0.0%	1	95.0%	1	→	1	-	→	1
47356	島尻郡渡名喜村	1	295	0.0%	1	95.0%	1	→	1	-	→	1
47357	島尻郡南大東村	6	993	0.1%	2	95.0%	2	→	1	-	→	2
47358	島尻郡北大東村	4	483	0.0%	1	95.0%	1	→	1	-	→	1
47359	島尻郡伊平屋村	5	986	0.1%	2	95.0%	2	→	1	-	→	2
47360	島尻郡伊是名村	5	1,153	0.1%	2	95.0%	3	→	1	-	→	3
47361	島尻郡久米島町	27	6,429	0.5%	13	95.0%	14	→	1	27	→	14
47362	島尻郡八重瀬町	23	24,409	2.0%	51	95.0%	53	→	5	5	→	53
47375	宮古郡多良間村	3	953	0.1%	2	95.0%	2	→	1	-	→	2
47381	八重山郡竹富町	13	3,285	0.3%	7	95.0%	7	→	1	-	→	7
47382	八重山郡与那国町	1	1,192	0.1%	2	95.0%	3	→	1	-	→	3
	合計	1,215	1,201,701	100.0%	2,500		2,632	→	274		→	2,630

※町丁字数は2016年度座標に基づく値

※地点数が1の市町村は人口が最も多い町丁字を調査地点とする。

第2章 調査結果の総括

1. 調査結果のポイント

「しまくとぅば」に対して78.4%の県民が「親しみ」があると回答しているものの、「親しみ」がないと回答した割合は平成25年度から増加傾向にある。

- 「しまくとぅば」に対する親しみについてみると、全体では「親しみを持っている」が40.6%、「どちらかといえば親しみを持っている」が37.8%となっており、これらを合わせると約80%の県民が親しみを持っていると回答している。
- 平成25年度の調査結果では80.3%の県民が親しみを持っていると回答しており、今回の調査結果との差はみられず、平成25年度と同様の傾向となっているものの、「どちらかといえば親しみを持っていない」と「親しみを持っていない」と回答した割合は3.4ポイント増加しており、「しまくとぅば」に親しみを持っていない県民は増加傾向にある。

県民の70%以上が「しまくとぅば」に対して「面白い」「身近」「明るい」をイメージしている。

- 「しまくとぅば」に対する12のイメージそれぞれについて、「そう思う」か「そう思わない」と回答した割合のうち、最も回答率が高かったのは、「面白さ」で77.0%、次に「身近さ」が72.8%、「明るさ」が72.5%、「誇らしさ」が66.9%、「田舎っぽさ」が57.1%、「感情的」が55.1%、「やわらかさ」が53.3%と、これらが「しまくとぅば」に対するそう思う割合の上位となっている。

63.8%の県民がなんらかの形で「しまくとぅば」を理解しているものの、平成25年度から理解していない割合が増加しており、総じて県民の理解度は低下傾向にある。

- 「しまくとぅば」に対する理解度についてみると、全体では「よくわかる」が18.1%、「ある程度わかる」が45.7%となっており、これらを合わせた理解している割合は63.8%と、60%以上の県民が「しまくとぅば」を何らかの形で理解していると回答している。
- 平成25年度の調査結果から理解している割合は4.6ポイント減少、「あまりわからない」「全くわからない」と回答した割合は4.5ポイント増加しており、総じて県民の「しまくとぅば」に対する理解度は低下傾向にある。
- 性別でみると、使用頻度と同様、女性よりも男性の方が理解度は高い。
- 年代別でみると、10代～30代では理解している割合が半数からそれ以下となっているものの、50代以上では80%を超えており、理解度は年代が上がるにつれて上昇している。

90%以上の県民が「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントに参加したことがない。

- 「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況についてみると、全体では「参加したことがある」が6.8%、「参加したことはない」が93.0%と、圧倒的に参加経験がない県民が多くなっている。

「しまくとぅば」を共通語以上に使う県民は27.8%である。「あいさつ程度使う」まで含めると54.1%が「しまくとぅば」を使用しているものの、この割合は平成25年度から減少し、使用していない割合が増加するなど、県民の「しまくとぅば」の使用頻度は低下傾向にある。

- 「しまくとぅば」の使用頻度についてみると、「しまくとぅば」を主に使うが6.9%、「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使うが20.9%、「あいさつ程度使う（ハイサイ等）」が26.3%と、日常的に「しまくとぅば」を使用している割合は54.1%となっている。
- 平成25年度の調査結果から「しまくとぅば」を共通語以上に使用している割合は3.9ポイント減少、使用していない割合が4.8ポイント増加しており、県民の「しまくとぅば」の使用頻度は低下傾向にある。
- 性別でみると、女性よりも男性が「しまくとぅば」を使用している割合が高い。
- 年代別でみると、10代～30代では「しまくとぅば」を共通語以上に使用している割合が半数以下となっているものの、50代以上では60%を超えており、「しまくとぅば」を使用している割合は年代が上がるにつれて高くなっている。

「しまくとぅば」を使う相手は「友達」が過半数を占めており、平成25年度と同じ傾向である。

- 「しまくとぅば」を使う方に対して、使う相手が誰になるのかをみると、全体では「友達」が58.2%、次に「親戚」が36.6%、「父母」が36.0%、「兄弟」が30.0%と続いている。
- 平成25年度の調査結果では「友達」（63.1%）、「父母」（47.5%）、「親戚」（40.1%）、「兄弟」（38.8%）と上位は今回と同様の傾向にある。
- 性別でみると、男性では「友達」（71.0%）や「職場の同僚」（29.8%）と回答している割合が全体や女性よりも高く、女性はその逆となっている。
- 年代別でみると、10代～30代までが「祖父母」、40代～50代が「父母」、60歳以上では「夫・妻」や「兄弟」、「子ども」の割合が高く、対話の相手は高齢者が中心である。

半数の県民がビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使うことに肯定的

- 「しまくとぅば」のビジネスや公共の場で使用してもいいと思うかについてみると、全体では「そう思う」が20.0%、「ややそう思う」が27.4%となっており、これらを合わせた使用に対する肯定的な割合は47.4%と、約半数の県民が「しまくとぅば」をビジネスや公共の場で使用することに肯定的である。
- 年代別でみると、10代～30代では肯定的な割合が低くなっているものの、50代以上では55%を超えており、肯定的な割合は年代が上がるにつれて高くなっている。

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要」とする県民は76.9%を占めている。これは平成25年度と同様の傾向であり、県民生活において「しまくとぅば」の必要性は依然として高い。

- 普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについてみると、全体では「非常にそう思う」が16.8%、「ある程度必要だと思う」が60.1%となっており、これらを合わせた必要度は76.9%となっている。
- 平成25年度の調査結果では78.7%の県民が「しまくとぅば」を必要と回答している。今回の調査結果との差はみられず、平成25年度と同様の傾向となっており、県民生活において「しまくとぅば」の必要性は依然として高い。
- 年代別でみると、10代～20代では必要度が70%以下となっているものの、50代以上では80%を超えている。

「しまくとぅば」を普及させるためには学校での教育が重要であるが、官公庁や民間企業、マスメディアでの「しまくとぅば」の使用やコンテスト、検定も普及において必要とする県民は平成25年度から増加傾向にあるため、これらの取り組みによる普及、意識啓発が重要である。

- 「しまくとぅば」の普及に必要なことについてみると、全体では「学校の総合学習等での実施」が74.2%で最多、次に「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」が57.9%となっており、「しまくとぅば」の普及には学校教育及びマスメディアにおけるPR、意識啓発が重要である。
- 平成25年度の調査結果でも「学校の総合学習等での実施」が最多であるが、官公庁や民間企業、マスメディアでの「しまくとぅば」の使用やコンテスト、検定も普及において必要とする県民は平成25年度から増加傾向にある。

82.2%の県民が子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと考えているものの、この割合は平成25年度から減少し、使えなくてもよいという割合が増加するなど、県民の「しまくとぅば」が使えるようになることに対する意識は低下傾向にある。

- 子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思うかについてみると、全体では「是非、使えるようになって欲しい」が29.2%、「できれば、使えるようになって欲しい」が53.0%となっており、これらを合わせると82.2%が何らかの形で子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいと考えている。
- 平成25年度の調査結果から「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと回答した割合は4.6ポイント減少し、使えなくてもよいと回答した割合は4.3ポイント増加するなど、県民の「しまくとぅば」が使えるようになることに対する意識は低下傾向にある。
- 年代別でみると、10代～20代では「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいと思う割合は10代(67.4%)、20代(76.3%)にとどまっているものの、40代や60歳以上では85%を超えている。

<p>県民の過半数が家庭内での「しまくとうば」に対する取り組みを実施していない。</p>

- 「子どもがいる」と回答した1,717人に対して、家庭内で子どもに対する「しまくとうば」に対する取り組みの実施状況をたずねたところ、全体では「積極的に教えている」が7.9%、「時々教えている」が37.9%、「ほとんど教えることはない」が53.6%となっており、「しまくとうば」を教えている割合よりも教えていない割合の方が高くなっている。
- 性別でみると、女性よりも男性で「しまくとうば」を教えている割合が高くなっている。
- 年代別でみると、20代で「しまくとうば」を教えている割合が31.0%と全体や40代以上に比べて低くなっているものの、70歳以上では58.8%と全体や他の年代と比べて高くなっている。

2. 総括

「しまくとうば」に対して「親しみを持っている」、「日常生活で必要である」と考えている県民は約80%を占め、平成25年度の結果とも同様の傾向となっており、県民の「しまくとうば」に対する関心度は非常に高い。また、なんらかの形で「しまくとうば」を理解し、「しまくとうば」を使用している県民が過半数を占めていることから、子どもたちにも「しまくとうば」を使えるようになってほしいと考えている県民が大多数を占めている。また、親しみ度合いと理解度、使用頻度の間は比例の関係にあり、親しみ度合いが高いほど理解度や使用頻度が高くなる傾向がみられる。

しかし、平成25年度の結果から「しまくとうば」の理解度や子どもたちに「しまくとうば」を使えるようになってほしいという割合は減少しており、使用頻度も低下している。その一方で、日常生活における「しまくとうば」の必要性は依然として高く、自由意見からも普及啓発・継承の促進といった要望は多くあげられている。

県民は「しまくとうば」に対して「面白い」「身近」「明るい」というイメージは強く、「丁寧」「明瞭」といったイメージは弱い。「しまくとうば」に対する親しみ度合いを高めるために、どのようなイメージを訴求すればよいかについて、重回帰分析を行ったところ、もっとも親しみ度合いに影響するイメージは「身近に感じる」ことであり、次に「誇らしい」「さわやか」「やわらかい」「面白い」「明瞭」となり、これらのイメージを訴求することで「しまくとうば」に対する親しみが高くなるという結果となった。

この「身近さ」を訴求していくために必要なことは、「しまくとうば」を普及させるために必要なこととリンクしており、調査結果では学校での教育が重要であることが導き出された。また、「しまくとうば」を使う相手として最も多かったのはいずれの年代においても「友達」である。年代別の調査結果からもみられるように、10代、20代といった若年層において、親しみ度合いや日常生活での必要度、理解度、使用頻度、ビジネスや公共の場で「しまくとうば」を使用することに対する意識などが低いことから、若いうちから友人や家庭内など、あらゆるシーンにおいて「しまくとうば」に触れる機会を増やし、より身近に感じさせる取り組みを浸透させていく必要がある。

また、調査期間中に「しまくとうば普及推進CM」が放映されていたことも関係してか、官公庁や民間企業、マスメディアでの「しまくとうば」の使用やコンテスト、検定

も普及において必要とする県民が平成25年度から増加しており、これらの取り組みによる普及、意識啓発も重要ファクターである。

本調査結果の大きな特徴の1つとして、親しみ度合いや日常生活での必要度、理解度、使用頻度、ビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使用することに対する意識などにおいて年代間の回答率の差が大きいことがあげられ、おおむね10代～20代の層、30代～40代の層、50歳以上の層という3つの層で回答率の差が大きくなっている。また、若年層で回答率が低く、年代が上がるにつれて回答率が高くなる傾向がみられ、30代や40代は全体平均とほぼ同じ傾向となっている。

時間の経過に伴い年代がスライドしていくと、理解度や使用頻度が低い10代～20代が30代～40代になり、50代以上よりも理解度や使用頻度が低い30代～40代が50代～60代となる。理解度や使用頻度が高い60歳以上は自然減していくことが想定され、それは「しまくとぅば」の理解度や使用頻度が全体的に低下することを意味する。このため、早急な対応として30代～40代に対する普及啓発を進めていくことが重要で、並行して10代の学校教育での「身近さ」の浸透、家庭内での普及といった取り組みを進めていく必要があるだろう。

もう1つの特徴として、地区による回答率の差があげられる。具体的には、北部地区では「しまくとぅば」に対する親しみ度合いや理解度、使用頻度、ビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使用することに対する肯定的な割合、日常生活での必要性、子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思う割合などで回答率が高く、逆に八重山地区（一部の設問では宮古地区も）では低いという結果である。沖縄本島の中でも北部とそれ以外の地区での違い、沖縄本島と離島地域との違いという二重構造になっており、これらの違いを踏まえたうえで普及啓発の取り組みが必要であることを示唆している。

「しまくとぅば」の普及に関する自由意見では、大多数が「しまくとぅば」を継承、存続、普及させ、聞く、話すことができるようになりたいという意識を持っている。しかし、性別、年代などの属性や生活環境などで使用頻度や理解度にばらつきがあるため、現状では理解できず、使用も限定的であるとしている。こうしたなかで、10代から40代の間では高齢者とのコミュニケーションを活発化するためにも、「しまくとぅば」を理解し、話すことができるようになりたいという意見もみられた。また、40代では自分たちの世代が「しまくとぅば」の普及・継承において分起点であることを理解しているという意見もみられた。

これらの実現のためには、「しまくとぅば」を聞く、話す機会・場を「学校」「地域」「家庭」などのあらゆるシーンで増やし、マスメディアによるPRや高齢の話者による指導などを行っていくことが重要である。

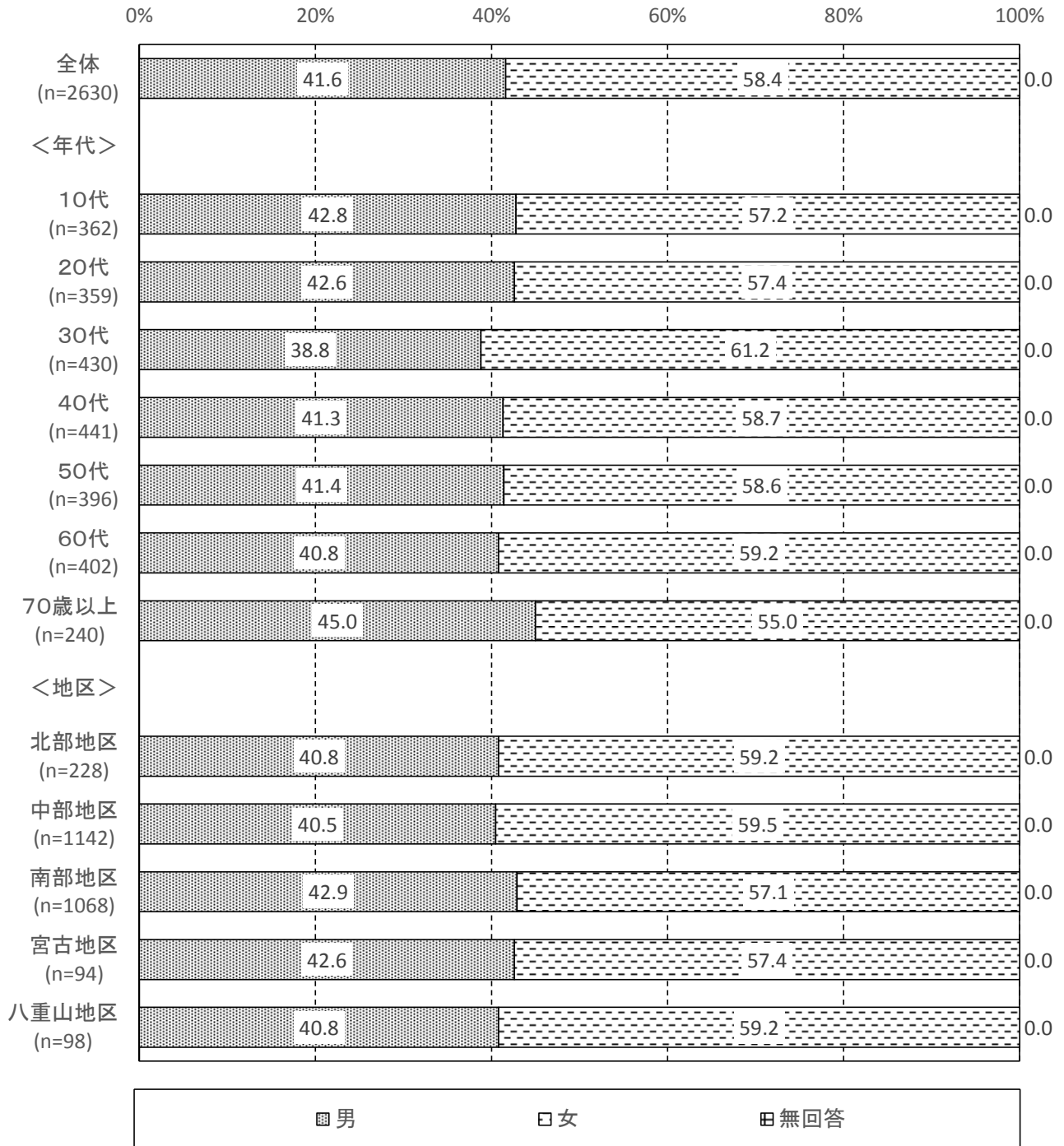
一方、若年層を中心に暴力的で汚い言葉を使う者の存在を指摘する意見も散見され、きれいな言葉（黄金言葉や童謡など）を継承すべきという意見もみられた。これは、「しまくとぅば」という大きな括りの中で、「誰に」「何を」「どのように」普及、継承していくのかを選別することも重要であることを示唆している。

第3章 調査結果

1. 調査対象者の属性

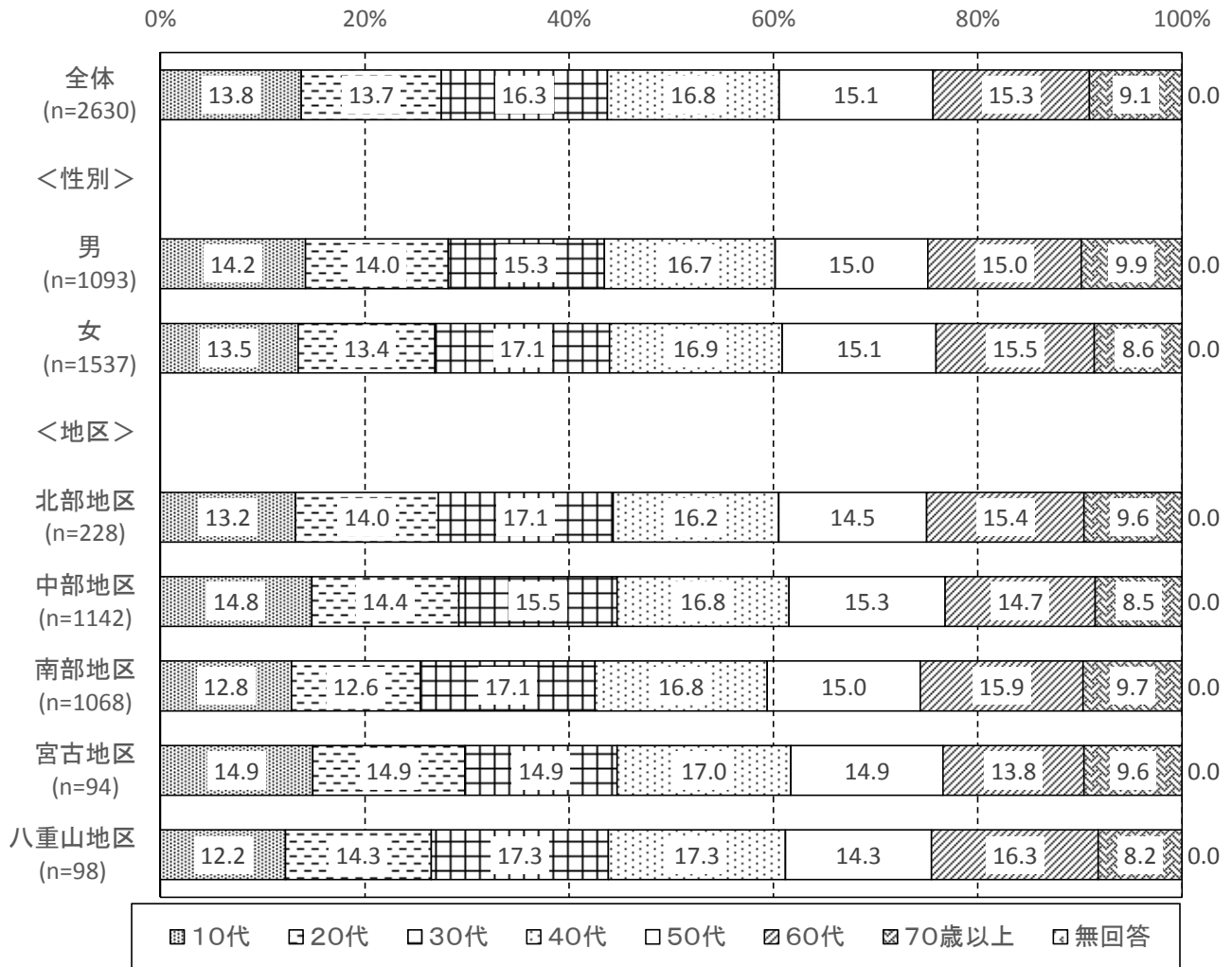
(1) 性別

図表2 性別



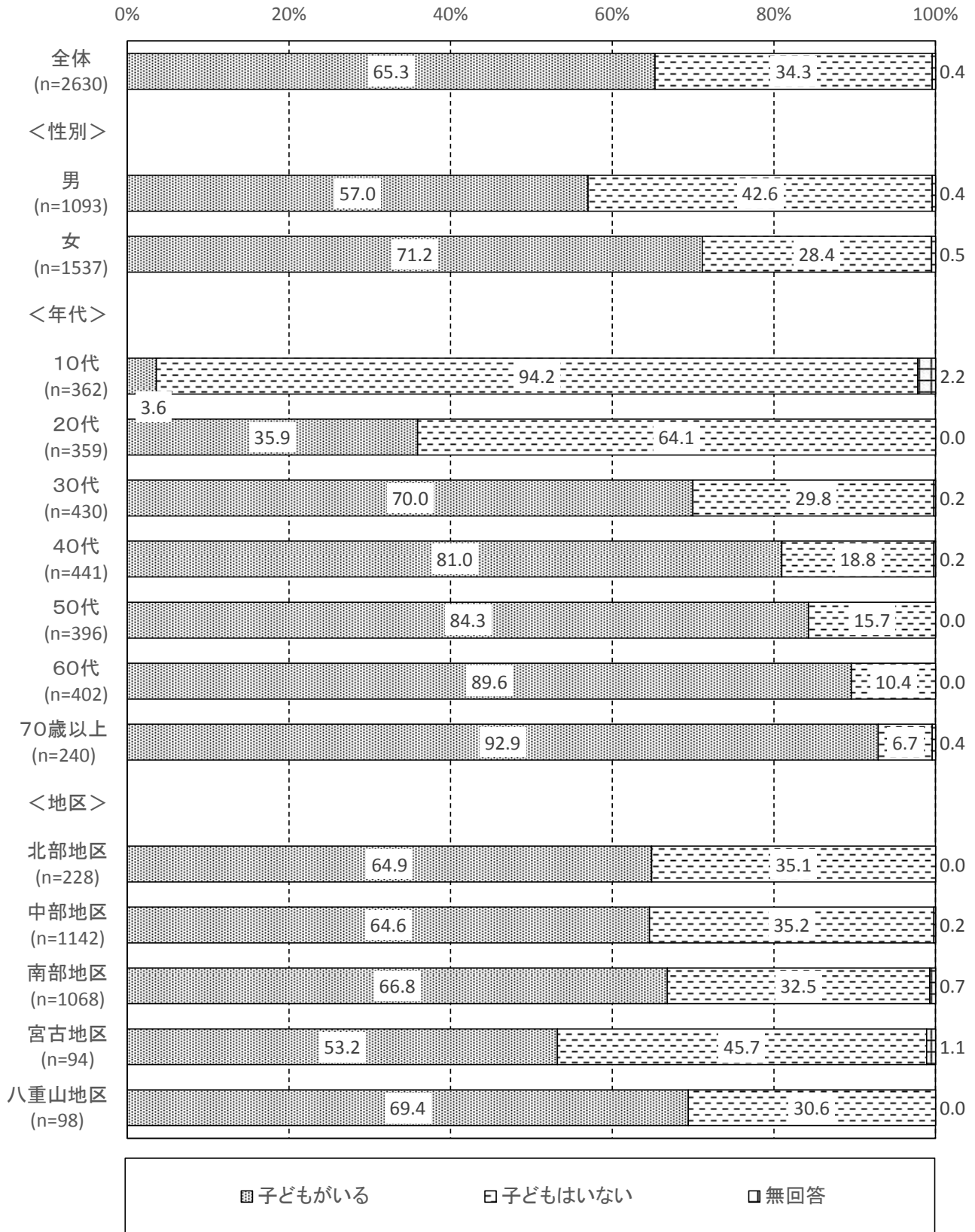
(2) 年代

図表3 年代



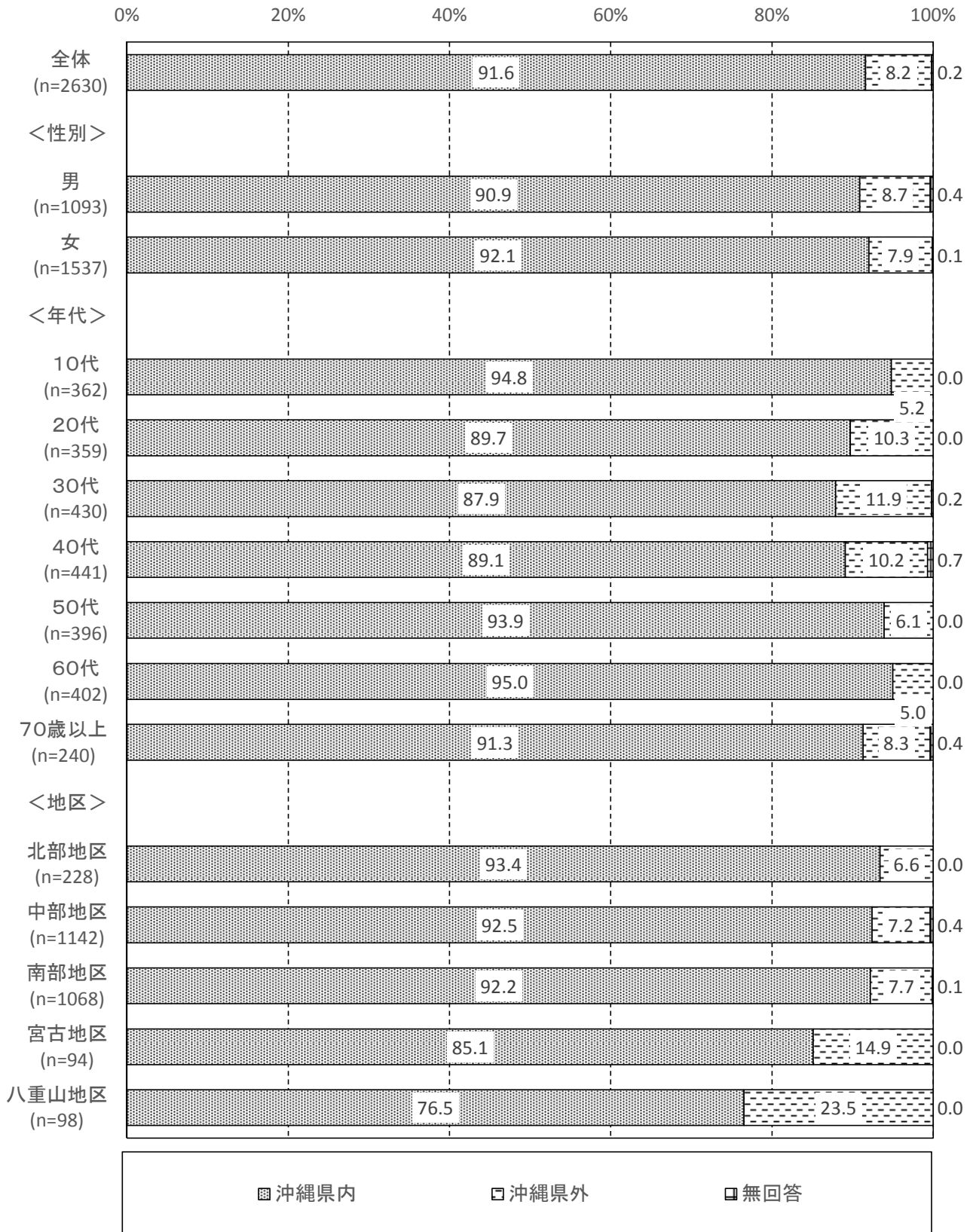
(3) 子どもの有無

図表4 子どもの有無



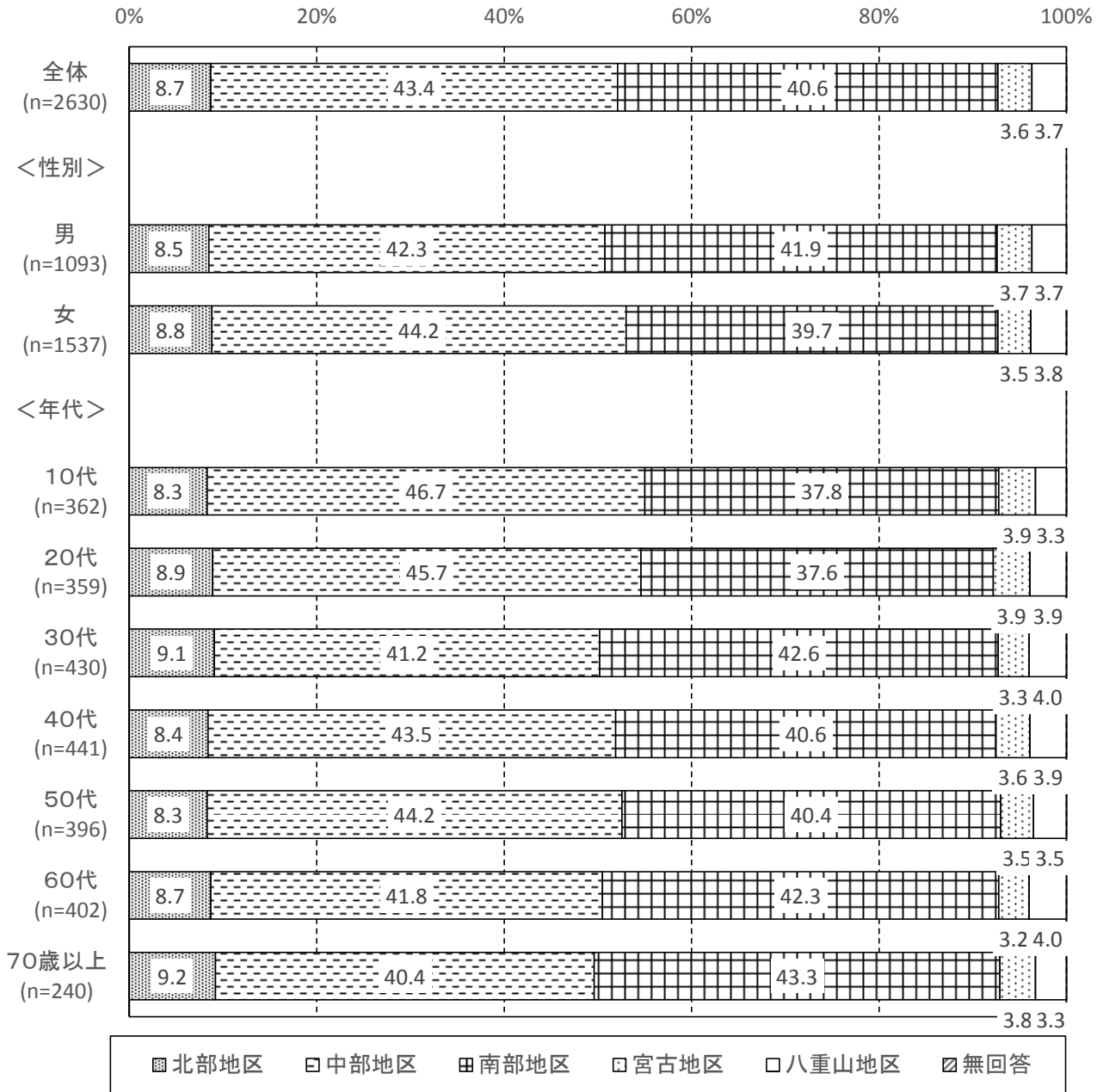
(4) 出生地

図表5 出生地



(5) 居住地区

図表6 居住地区



2. 「しまくとぅば」に対する親しみ

「しまくとぅば」に対する親しみについてみると、全体では「親しみを持っている」が40.6%、「どちらかといえば親しみを持っている」が37.8%となっており、これらを合わせると約80%の県民が親しみを持っていると回答している。

平成25年度の調査結果では80.3%の県民が親しみを持っていると回答しており、今回の調査結果との差はみられず、平成25年度と同様の傾向となっている。しかし、「どちらかといえば親しみを持っていない」と「親しみを持っていない」と回答した割合は、平成25年度では12.0%であるのに対して、平成28年度では15.4%と3.4ポイント増加となっており、「しまくとぅば」に親しみを持っていない県民は増加傾向にある。

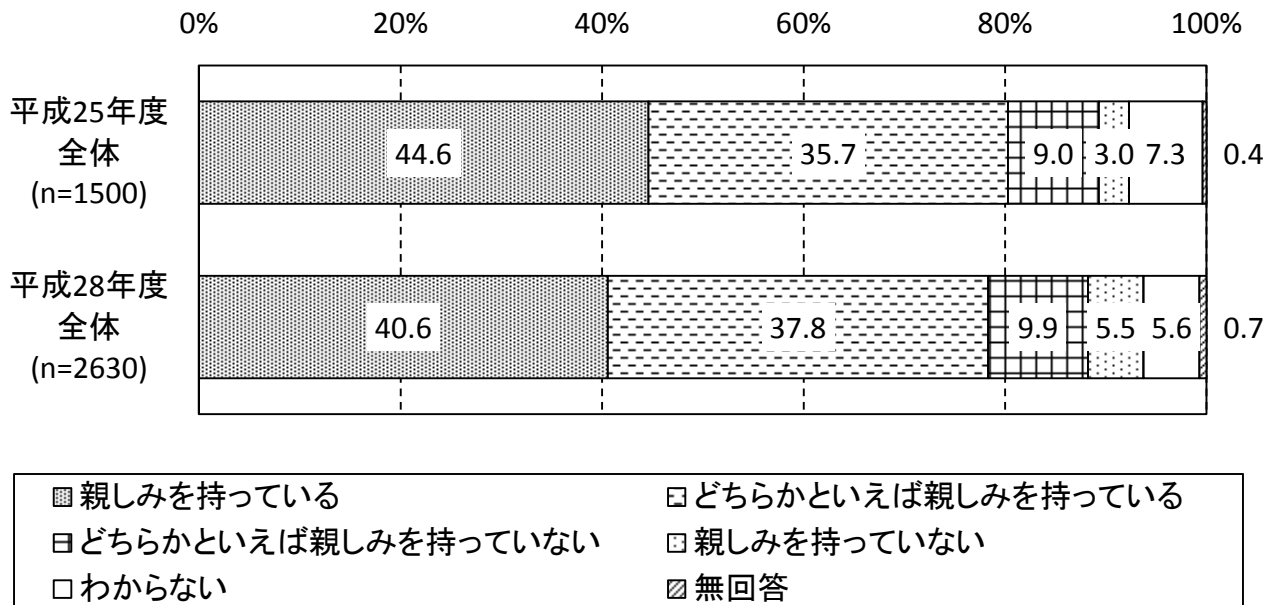
性別でみると、女性よりも男性の方が「親しみを持っている」と回答した割合が高くなっており、「どちらかといえば親しみを持っている」と回答した割合は男性よりも女性の方が高くなっている。

年代別でみると、「親しみを持っている」と回答した割合は10代の10.2%から年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上では76.3%を占めている。

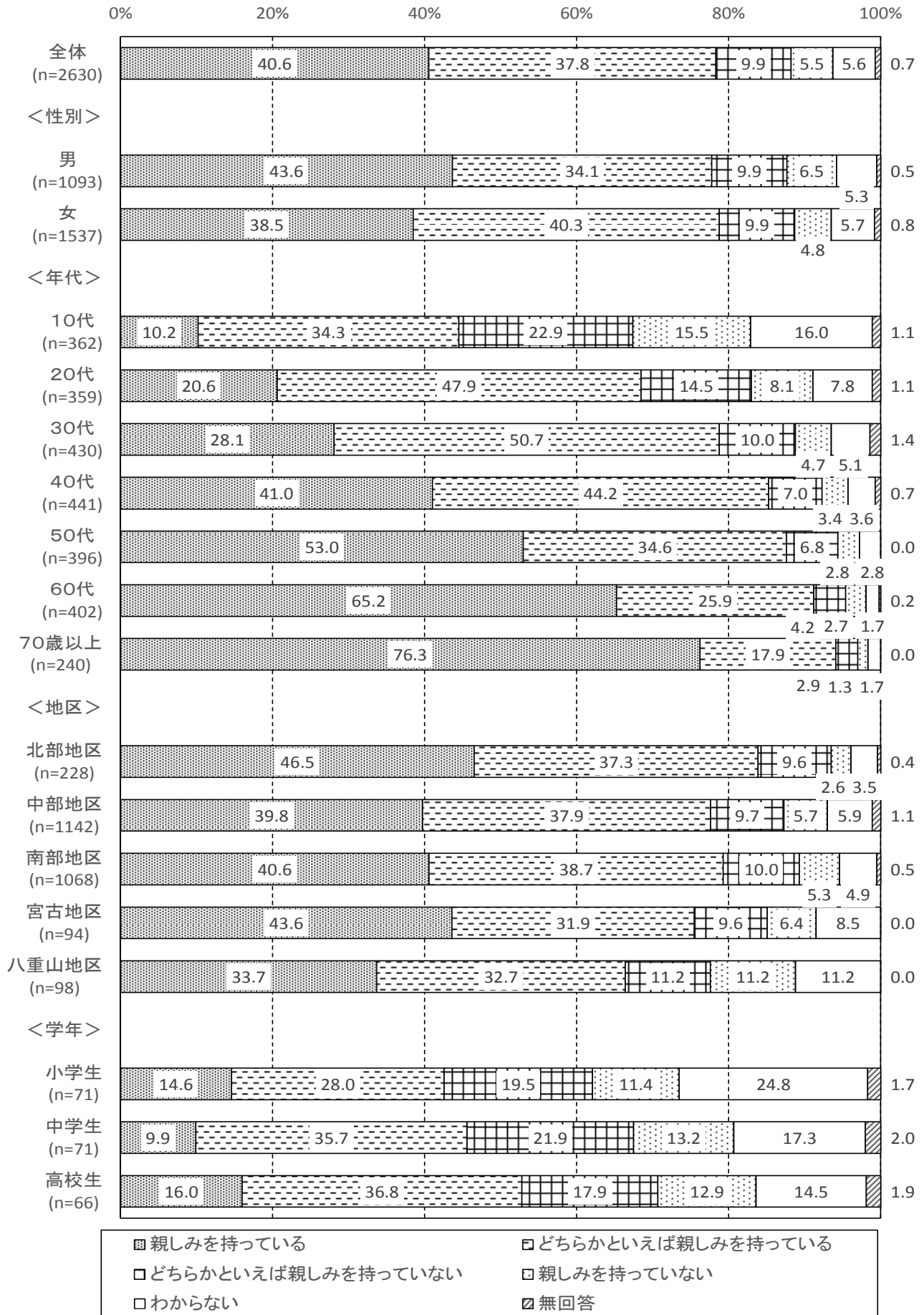
地区別でみると、「親しみを持っている」と回答した割合は北部地区で最も高くなっている。

学年別でみると「しまくとぅば」に対する親しみの度合いは10代の傾向と同様となっており、学年間の差はみられない。

図表7 「しまくとぅば」に対する親しみ（前回比較）



図表8 「しまくとぅば」に対する親しみ



3. 「しまくとぅば」に対するイメージ

「しまくとぅば」に対する12のイメージそれぞれについて、「そう思う」か「そう思わない」かについてを5段階で回答してもらい、「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合（「やわらかさ」の場合は「非常にやわらかい」または「やややわらかい」と回答した割合）を集計したところ、最も回答率が高かったのは、「面白さ」で77.0%、次に「身近さ」が72.8%、「明るさ」が72.5%、「誇らしさ」が66.9%、「田舎っぽさ」が57.1%、「感情的」が55.1%、「やわらかさ」が53.3%と、これらが「しまくとぅば」に対するそう思う割合の上位となっている。

一方、「丁寧さ」（29.3%）や「明瞭さ」（34.6%）、「さわやかさ」（42.3%）、「かっこよさ」（45.5%）、「豪快さ」（48.9%）というイメージは半数以下にとどまっている。

次に、前項の「しまくとぅば」に対する親しみ度合いと「しまくとぅば」に対するイメージとの間にどのような関係があり、どのようなイメージを訴求すると親しみ度合いが高まるのかについて、重回帰分析を行った。

この結果をみると、親しみ度合いにもっとも影響するイメージは「身近に感じる」であり、次に「誇らしい」「さわやか」「やわらかい」「面白い」「明瞭」となり、これらのイメージを訴求することで「しまくとぅば」に対する親しみが高くなるという結果となった。

図表9 「しまくとぅば」に対する親しみやすさを規定する要因分析結果

説明変数	β 係数	判定
1 やわらかい	0.0696	**
2 明るい		
3 丁寧		
4 誇らしい	0.1199	**
5 豪快		
6 さわやか	0.0981	**
7 かっこいい		
8 面白い	0.0637	**
9 身近に感じる	0.3300	**
10 感情的		
11 田舎っぽい		
12 明瞭	0.0534	**
定数項	0.8457	**
サンプル数	2566	
決定係数	0.2933	

【表の見方】

- ・ β 係数の値が大きいほど親しみやすさに対する寄与度が大きいことを意味する。
- ・ 判定の「**」は有意水準を表し、100回のトライアルで95回は同じ変数が採用されることを意味する。
- ・ 定数項は切片を意味する。
- ・ サンプル数は分析に使用したサンプルの数で、分析では説明変数と目的変数の全てに回答があるサンプルを採用した。
- ・ 決定係数は、重回帰式を説明できる割合で、これが高ければ高いほど式の精度が高いことを意味する。

重回帰分析とは、原因と考えられる変数（説明変数：X）と結果となる変数（目的変数：Y）の間に一方的な因果関係があると考え、結果となる変数の変動は1個あるいは複数個の説明変数によって説明できると考えるもので、その平均的な関係を示す「重回帰式」を求める手法である。

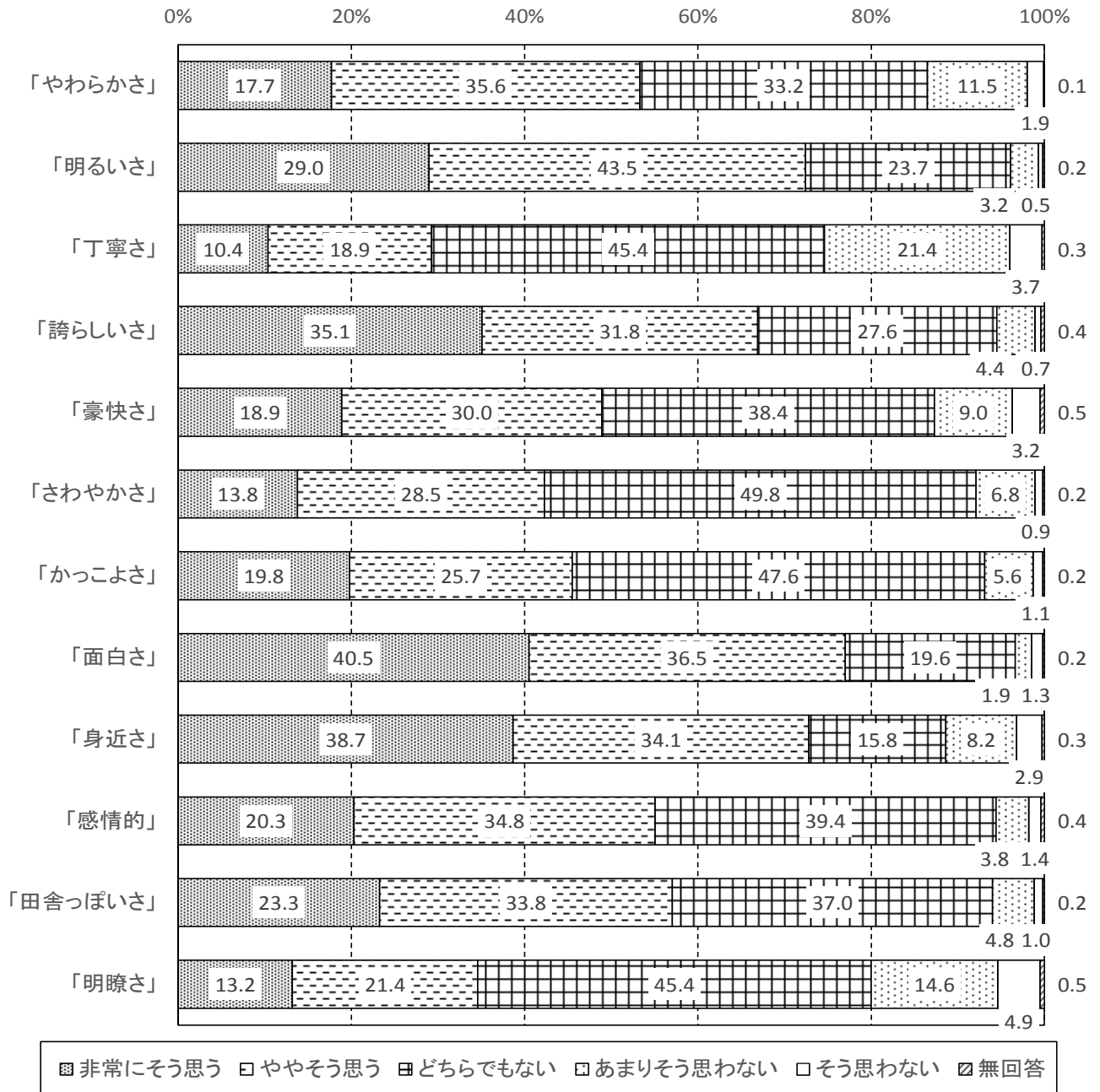
重回帰式例： $Y = a_1X_1 + a_2X_2 + a_3X_3 \dots + b$

（Y：目的変数、X1、X2、X3：説明変数、a1、a2、a3：回帰係数、b：定数項）

説明変数が多数ある重回帰分析を重回帰分析といい、重回帰式の適合度がもっとも高くなるような説明変数を段階的に投入・除去しながら有意な説明変数の組み合わせを析出する方法をステップワイズ重回帰分析という。

ここでいう重回帰分析とは、「しまくとぅば」に対する各イメージの中で、「しまくとぅば」に対する親しみ度合いを高める要因とその組み合わせを探っていく分析手法である。

図表10 「しまくとぅば」に対するイメージ



4. 「しまくとぅば」に対する理解度

「しまくとぅば」に対する理解度についてみると、全体では「よくわかる」が18.1%、「ある程度わかる」が45.7%となっており、これらを合わせた割合は63.8%と、60%以上の県民が「しまくとぅば」を何らかの形で理解していると回答している。

平成25年度の調査結果では「よくわかる」「ある程度わかる」と回答した割合（理解している割合）は68.4%であり、4.6ポイント減少している。また、「あまりわからない」「全くわからない」と回答した割合（理解していない割合）は、平成25年度が31.1%であるのに対して、平成28年度では35.6%と4.5ポイント増加しており、県民の「しまくとぅば」に対する理解度は低下している。

性別でみると、女性よりも男性の方が理解度は高く、理解している割合は68.0%を占めている。

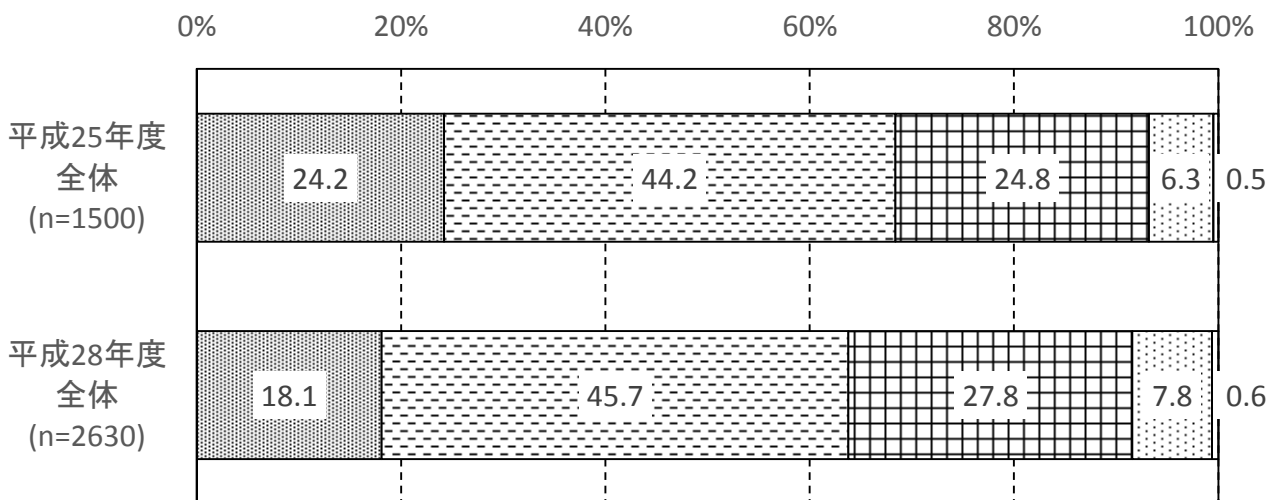
年代別でみると、10代～30代では理解している割合が半数以下となっているものの、50代以上では80%を超えている。また、理解している割合は年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上では95.5%と、高齢者ほど高くなっている。

地区別でみると、北部地区では理解している割合は72.8%と全体や他の地区と比べて高くなっているものの、八重山地区では51.0%と全体や他の地区と比べて低くなっている。

「しまくとぅば」に対する親しみ度別でみると、理解している割合は、「しまくとぅば」に対して「親しみを持っている」層では88.3%、「どちらかといえば親しみを持っている」層では60.3%と、親しみを持っている層の60%以上が「しまくとぅば」を理解している反面、「どちらかといえば親しみを持っていない」層は28.1%、「親しみを持っていない」層は20.0%、「わからない」層は20.5%と、親しみを持っていない、あるいはわからない層では30%以下にとどまっている。このように、親しみ度と理解度は比例する関係にある。

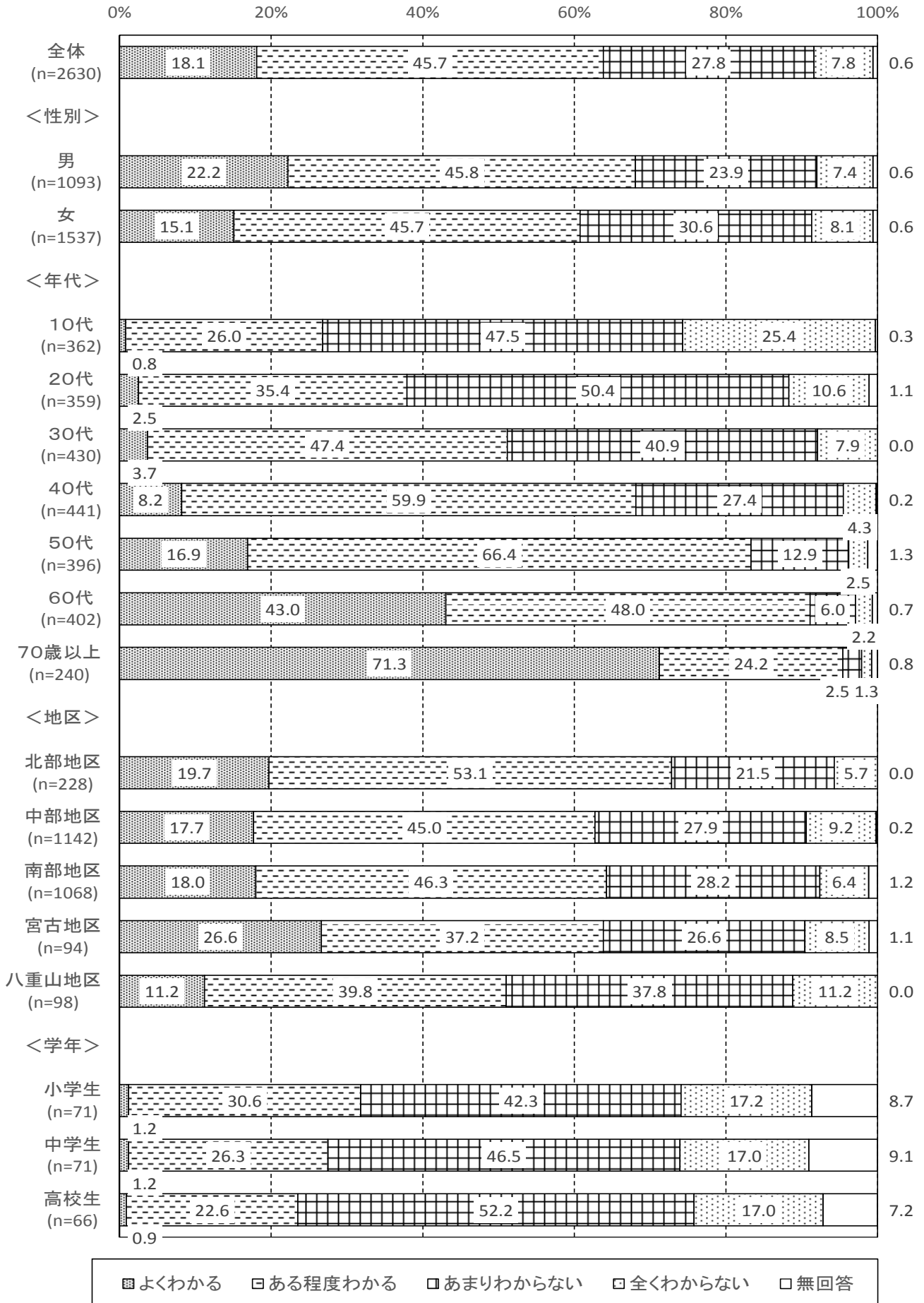
学年別でみると、「しまくとぅば」を理解している割合は10代の傾向と同様となっており、学年の違いによる差はみられない。

図表11 「しまくとぅば」に対する理解度（前回比較）



■よくわかる □ある程度わかる ▨あまりわからない ▩全くわからない □無回答

図表12 「しまくとぅば」に対する理解度

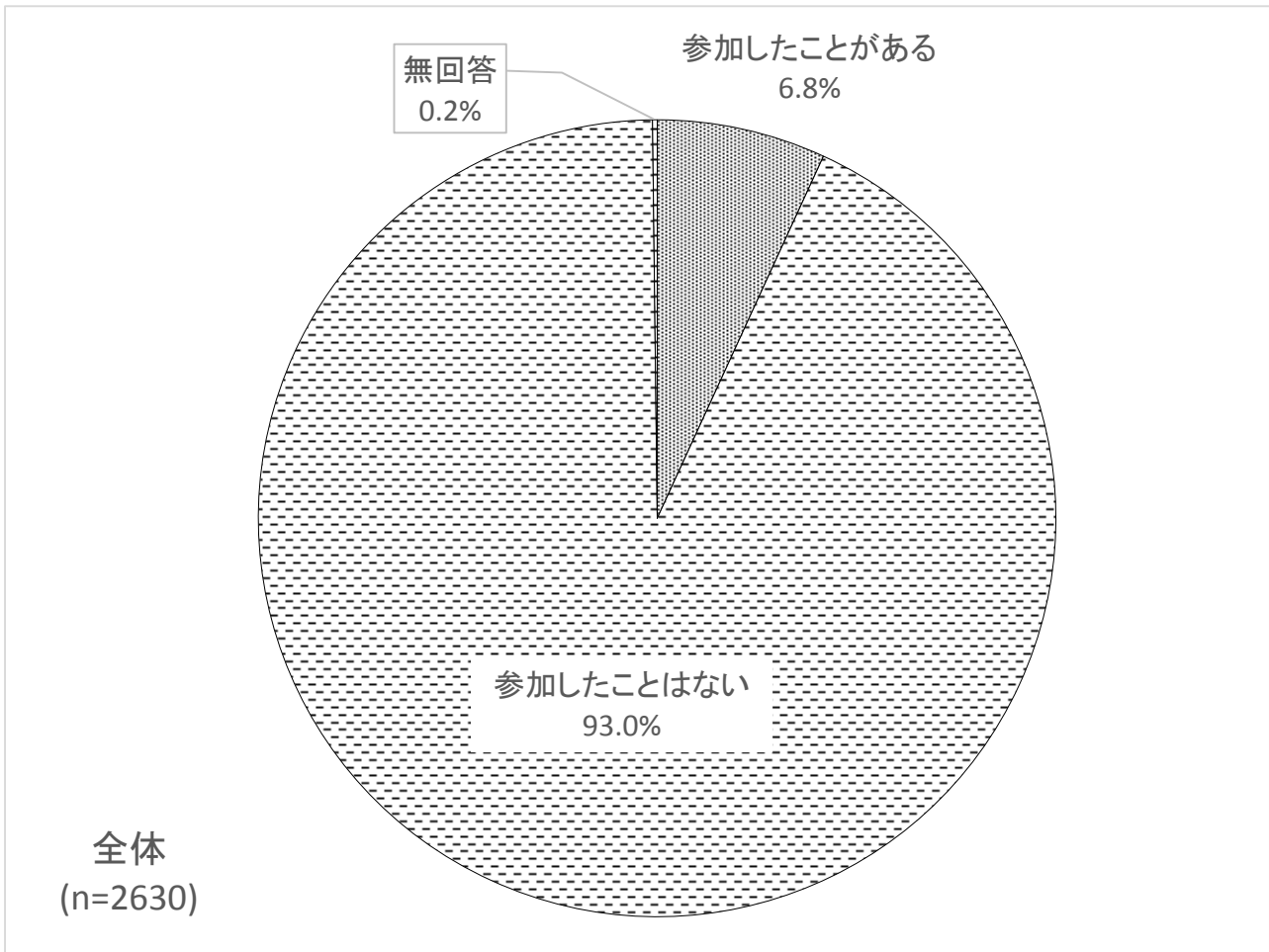


5. 「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況

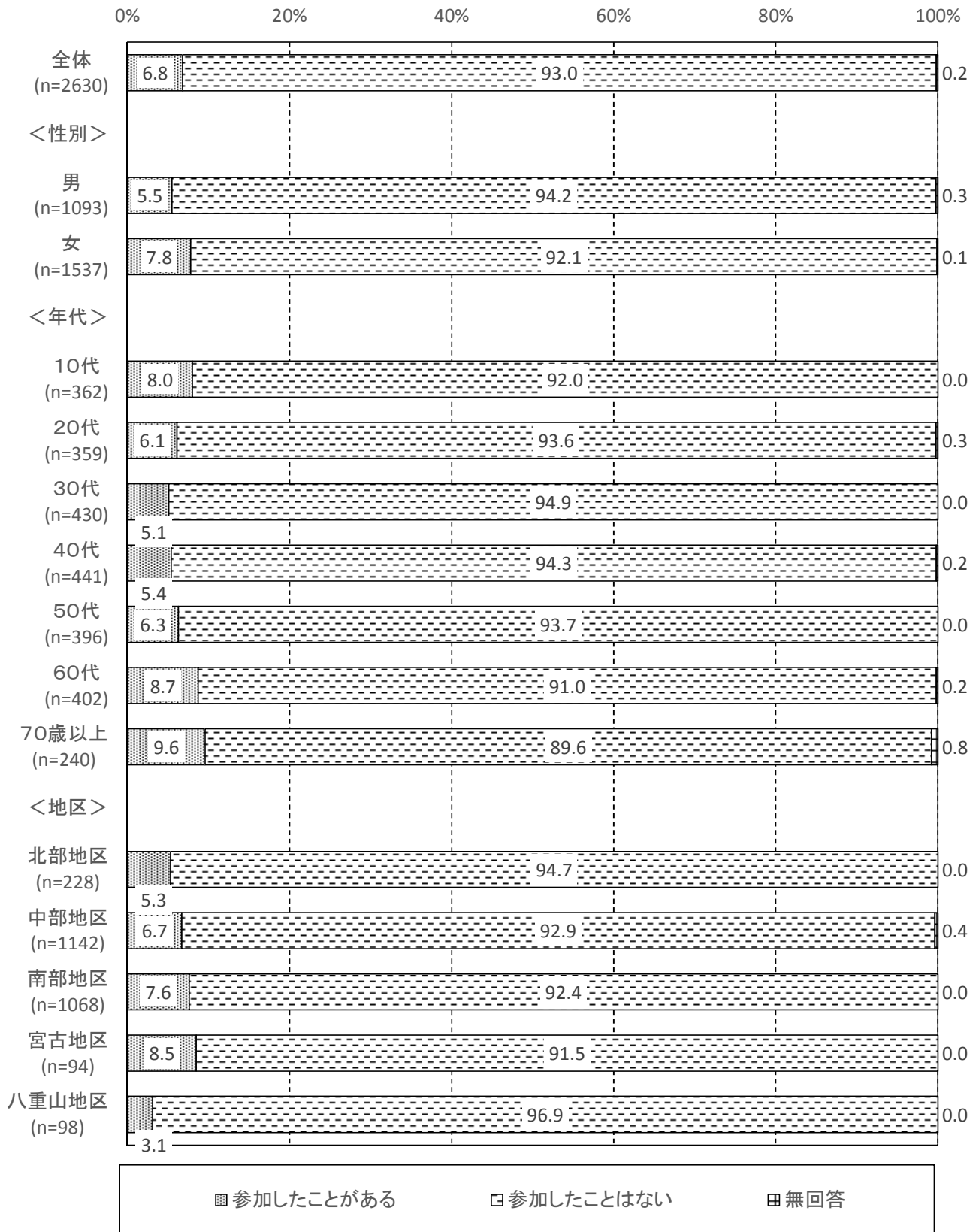
「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況についてみると、全体では「参加したことがある」が6.8%、「参加したことはない」が93.0%と、圧倒的に参加経験がない県民が多くなっている。

性別、年代別、地区別でも、全体と同様の傾向となっている。

図表13 「しまくとぅば」講座や関連イベントの参加状況（全体結果）



図表14 「しまくとぅば」講座や関連イベントの参加状況



6. 「しまくとぅば」の使用頻度

「しまくとぅば」の使用頻度についてみると、「しまくとぅば」を主に使う」が6.9%、「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」が20.9%、「あいさつ程度使う（ハイサイ等）」が26.3%と、「しまくとぅば」を使用している割合は54.1%となっている。

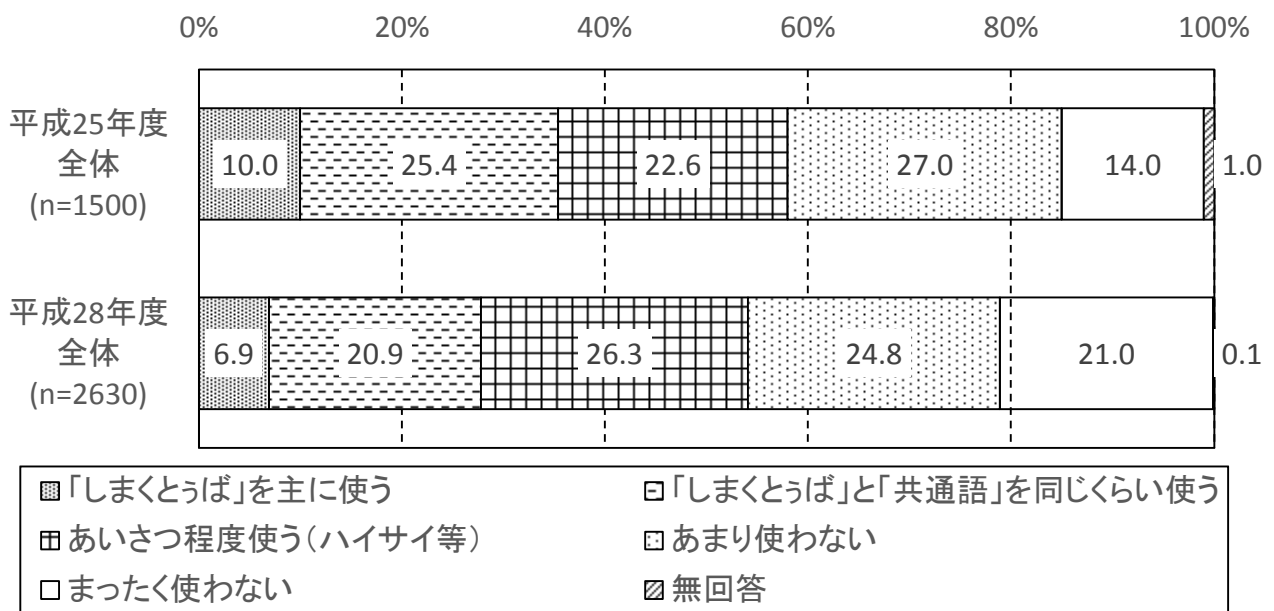
平成25年度の調査結果では「しまくとぅば」を使用している割合は58.0%であり、今回の調査結果と比較して3.9ポイント減少、使用していない割合は41.0%で4.8ポイント増加しており、県民の「しまくとぅば」の使用頻度は低下傾向にある。

性別でみると、女性よりも男性の方が「しまくとぅば」を使用している割合が高い。

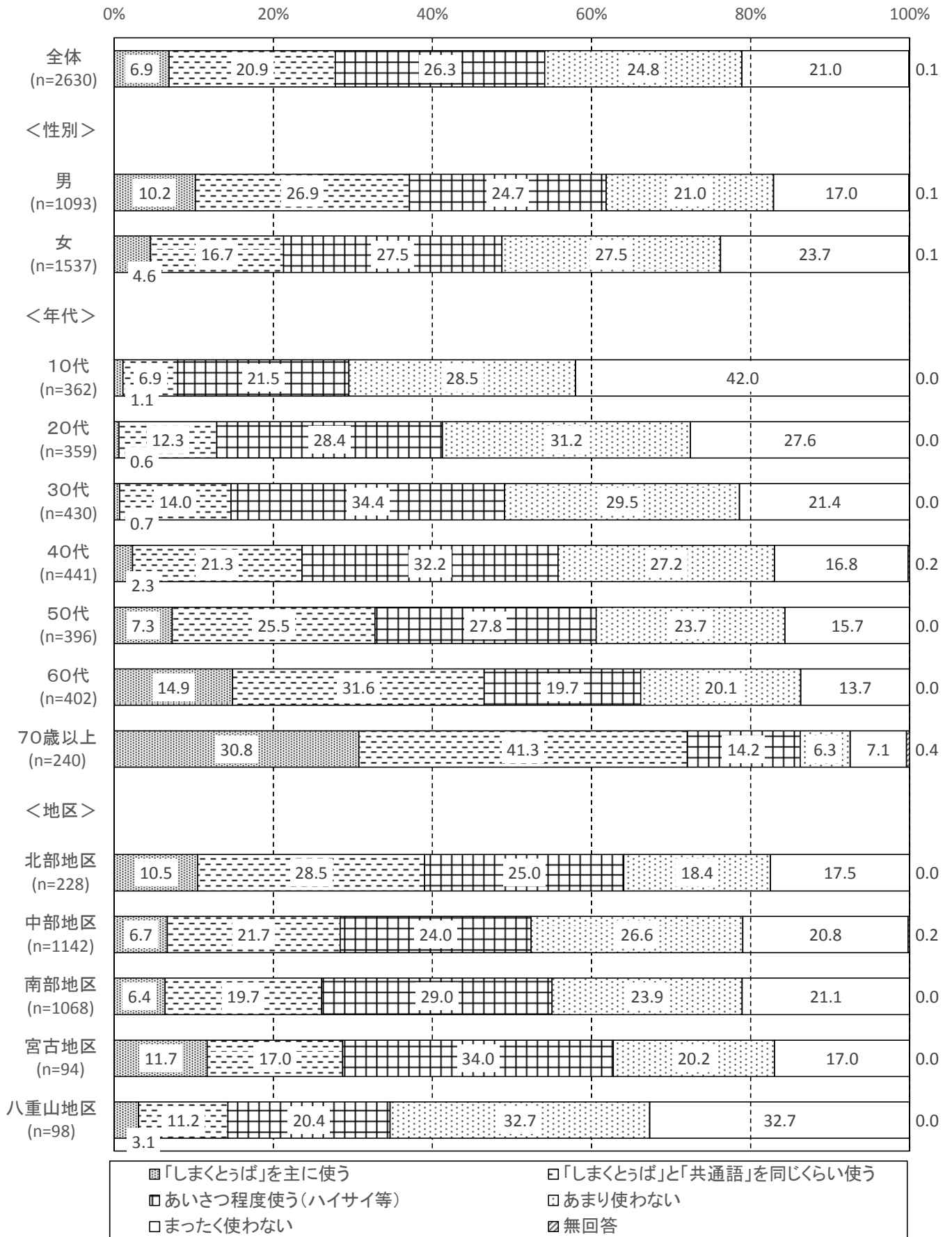
年代別でみると、10代～30代では「しまくとぅば」を使用している割合が半数以下となっており、40代以上では半数を超えている。また、「しまくとぅば」を使用している割合は年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上では86.3%と、高齢者ほど「しまくとぅば」を使用している割合が高くなっている。

地区別でみると、北部地区で「しまくとぅば」を使用している割合が64.0%と全体や宮古地区以外の地区に比べて高くなっている一方、八重山地区では34.7%と全体や他の地区と比べて低くなっている。

図表15 「しまくとぅば」の使用頻度（前回比較）

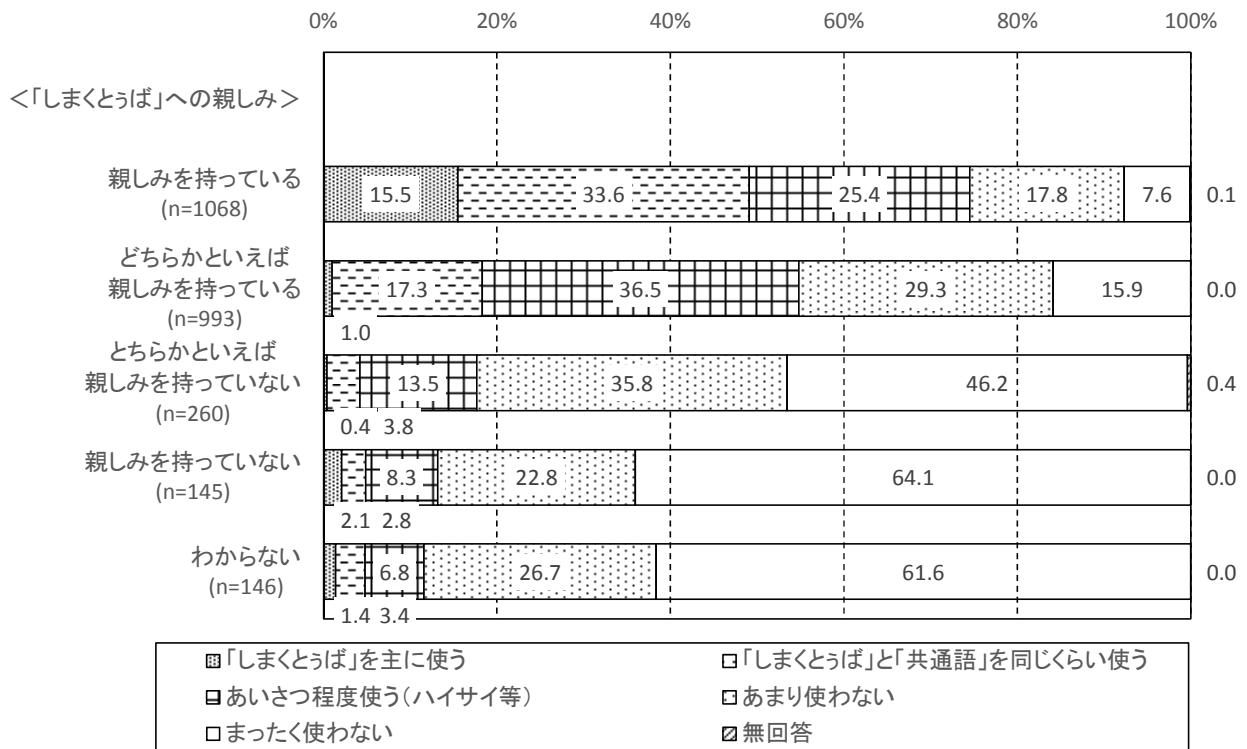


図表16 「しまくとぅば」の使用頻度



「しまくとぅば」に対する親しみ度別でみると、「しまくとぅば」を使用している割合は、「しまくとぅば」に対して「親しみを持っている」層では74.5%、「どちらかといえば親しみを持っている」層では54.8%と、親しみを持っている層の過半数が「しまくとぅば」を使用している反面、「どちらかといえば親しみを持っていない」層は17.7%、「親しみを持っていない」層は13.2%、「わからない」層は11.6%と、親しみを持っていない、あるいはわからない層では20%以下にとどまっている。

図表17 「しまくとぅば」の使用頻度（「しまくとぅば」への親しみ度別）



7. 「しまくとぅば」を使う相手

前項で「しまくとぅば」を「まったく使わない」と回答した方を除いて、使用頻度を問わず「しまくとぅば」を使う方に対して、使う相手が誰になるのかをみると、全体では「友達」が58.2%、次に「親戚」が36.6%、「父母」が36.0%、「兄弟」が30.0%と続いている。

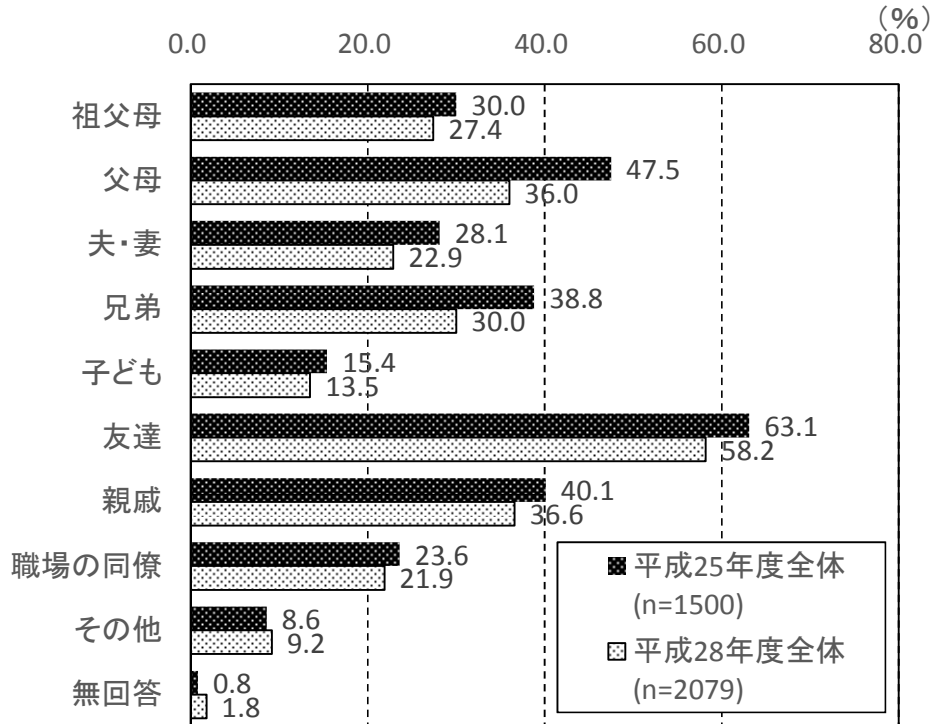
平成25年度の調査結果では「友達」(63.1%)、「父母」(47.5%)、「親戚」(40.1%)、「兄弟」(38.8%)と上位は今回と同様の傾向にあるが、「しまくとぅば」の使用頻度の低下傾向からか、回答率は減少している。

性別でみると、男女とも全体と同様の傾向がみられるものの、男性では「友達」(71.0%)や「職場の同僚」(29.8%)と回答している割合が全体や女性よりも高くなっている。

年代別でみると、年代別でみると、いずれの年代でも「友達」が最多となっているものの、10代～30代までが「祖父母」、40代～50代が「父母」、60歳以上では「夫・妻」や「兄弟」、「子ども」を相手に「しまくとぅば」を使う割合が高くなっており、いずれの世代においても対話の中心に高齢者の存在がある。

地区別で見ると、北部地区で「兄弟」(42.6%)や「友達」(68.6%)、「親戚」(46.8%)などが全体よりも高くなっている。また、宮古地区では「父母」(46.2%)「祖父母」(43.6%)が全体よりも高くなっている。逆に、八重山地区では「父母」(22.7%)や「親戚」(21.2%)で全体よりも低くなっている。

図表18 「しまくとぅば」を使う相手(前回比較)



図表19 「しまくとぅば」を使う相手

		サンプル数	祖父母	父母	夫・妻	兄弟	子ども	友達	親戚	職場の同僚	その他	無回答
単位:%												
全体		2079	27.4	36.0	22.9	30.0	13.5	58.2	36.6	21.9	9.2	1.8
性別	男	907	25.7	37.6	23.7	34.4	12.8	71.0	39.9	29.8	7.8	1.3
	女	1172	28.8	34.8	22.4	26.6	14.1	48.4	34.0	15.8	10.3	2.2
年代	10代	210	36.2	31.9	3.3	20.5	1.9	70.0	15.2	0.0	2.4	2.4
	20代	260	37.3	35.0	11.5	24.2	6.9	63.8	21.2	21.2	6.5	1.2
	30代	338	38.5	39.9	15.7	20.7	12.1	53.3	20.1	29.3	7.4	1.5
	40代	367	29.4	46.0	17.4	22.6	13.4	48.0	30.2	31.1	8.2	2.2
	50代	334	27.5	43.7	27.2	26.9	9.9	49.1	38.0	27.2	11.7	2.7
	60代	347	15.6	31.4	40.1	44.4	19.0	58.8	55.9	23.1	12.4	1.7
	70歳以上	223	5.8	14.3	41.7	54.3	31.4	78.0	78.0	7.2	14.8	0.9
地区	北部地区	188	30.9	41.5	21.3	42.6	18.6	68.6	46.8	21.8	16.5	0.0
	中部地区	904	25.3	36.2	23.8	27.4	13.2	60.2	33.6	20.8	8.5	2.1
	南部地区	843	27.9	34.8	22.7	31.0	13.9	55.9	38.7	24.4	8.1	2.1
	宮古地区	78	43.6	46.2	26.9	26.9	5.1	37.2	37.2	15.4	14.1	0.0
	八重山地区	66	21.2	22.7	15.2	21.2	9.1	57.6	21.2	12.1	7.6	1.5

8. ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識

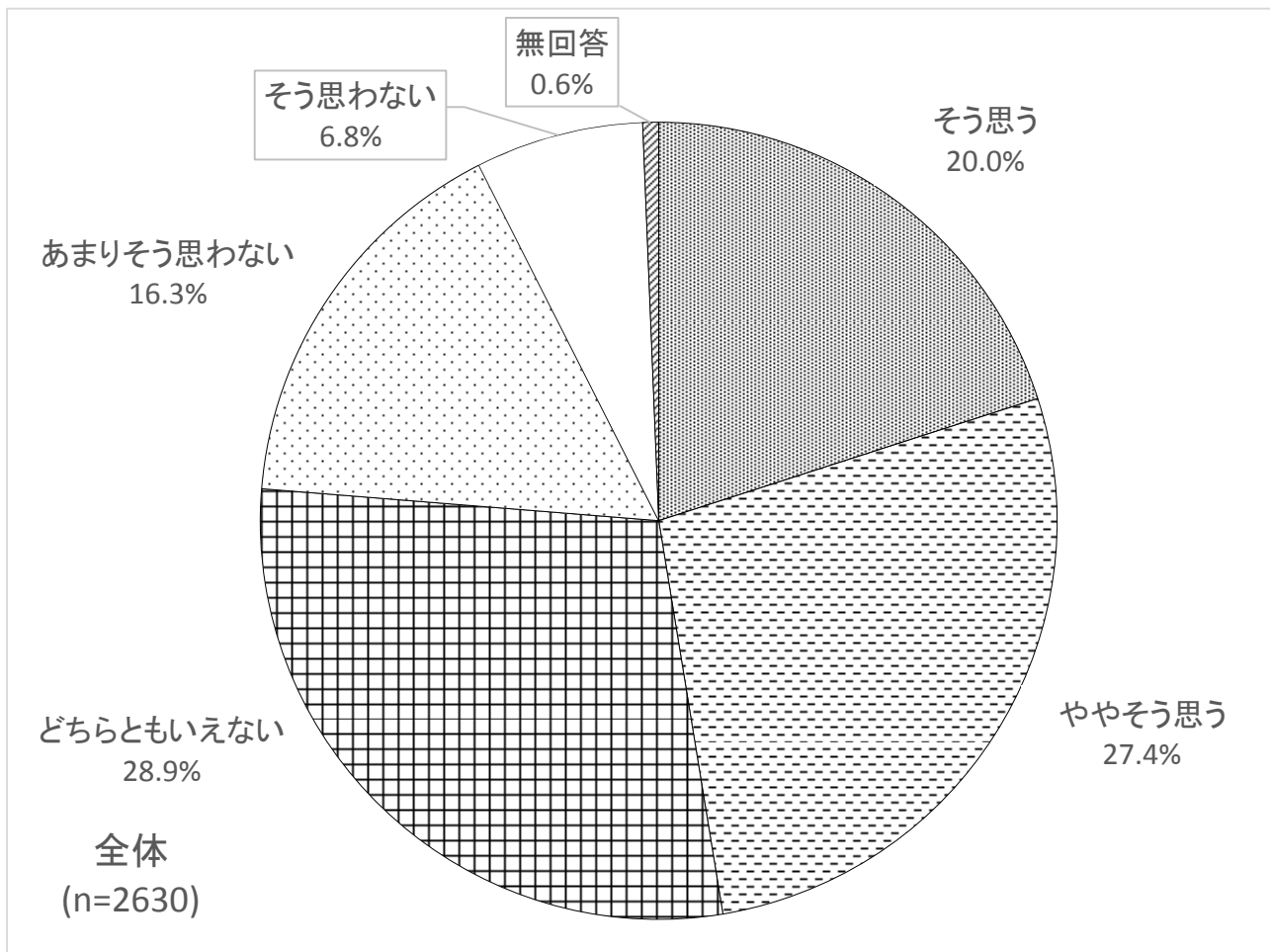
「しまくとぅば」のビジネスや公共の場で使用してもいいと思うかについてみると、全体では「そう思う」が20.0%、「ややそう思う」が27.4%となっており、これらを合わせた使用に対する肯定的な割合は47.4%である。逆に、「あまりそう思わない」が16.3%、「そう思わない」が6.8%と、これらを合わせた使用に対する否定的な割合は23.1%となっており、約半数の県民が「しまくとぅば」をビジネスや公共の場で使用することに肯定的である。

性別でみると、男女とも全体と同様、肯定的な割合が半数程度を占めているものの、男女による差はみられない。

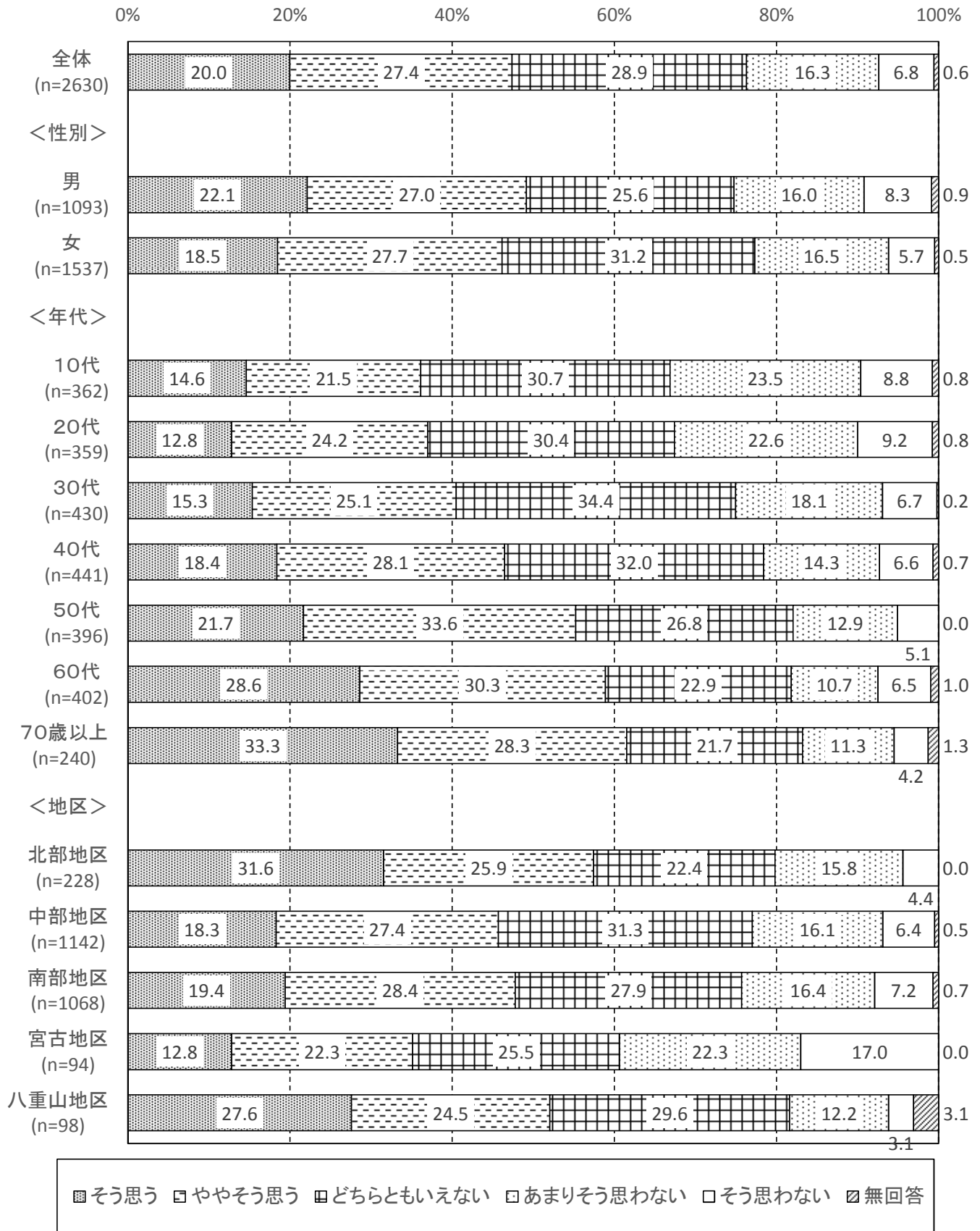
年代別でみると、10代～20代では肯定的な割合が40%以下と全体や50代以上に比べて低くなっている。一方、50代以上では肯定的な割合が55%を超えており、年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上では61.6%と、高齢者ほど肯定的な割合が高くなっている。

地区別でみると、北部地区では肯定的な割合が57.5%と他の地区に比べて高くなっている。また、八重山地区でも肯定的な割合が52.1%と全体や南部地区、宮古地区と比べて高くなっている。逆に、宮古地区では肯定的な割合（35.1%）よりも否定的な割合（39.3%）が高くなっている。

図表20 ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識（全体結果）



図表2-1 ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識



9. 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについてみると、全体では「非常にそう思う」が16.8%、「ある程度必要だと思う」が60.1%となっており、これらを合わせた必要と思う割合は76.9%となっている。

平成25年度の調査結果では78.7%の県民が「しまくとぅば」を必要と回答している。今回の調査結果との差はみられず、平成25年度と同様の傾向となっており、県民生活において「しまくとぅば」の必要性は依然として高い。

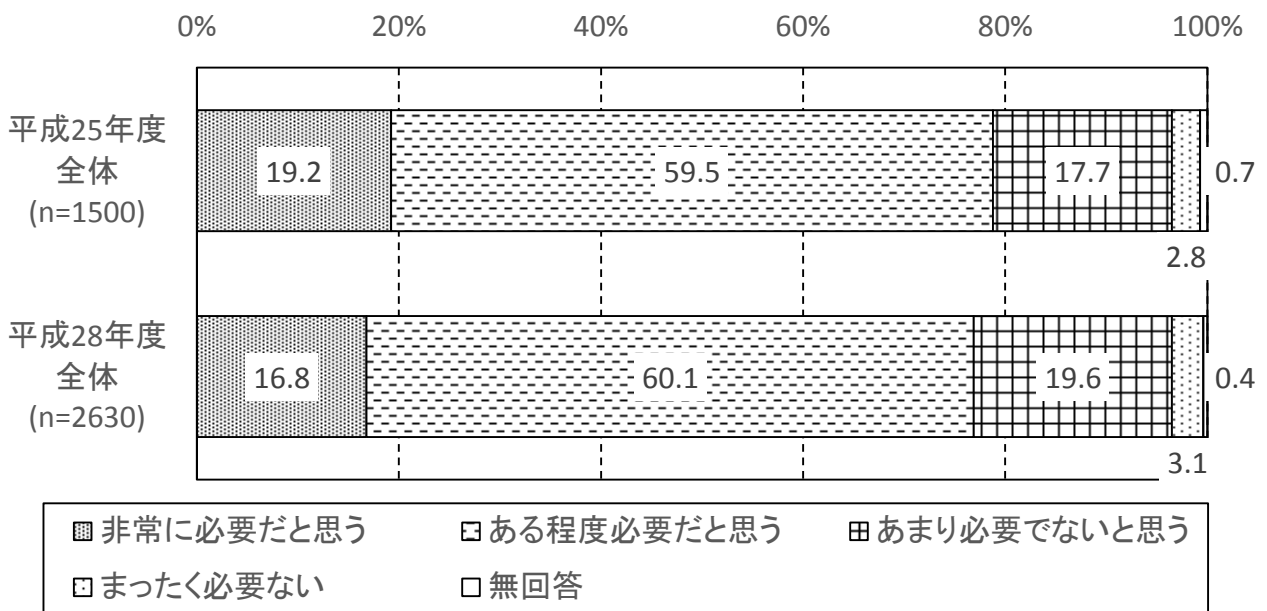
性別でみると、男女とも全体と同様、必要と思う割合は80%弱を占めているものの、男女による差はみられない。

年代別でみると、10代～20代では必要と思う割合が70%以下と全体や30代以上に比べて低くなっているものの、40代以上では80%を超えており、全体や20代以下と比べて高くなっている。

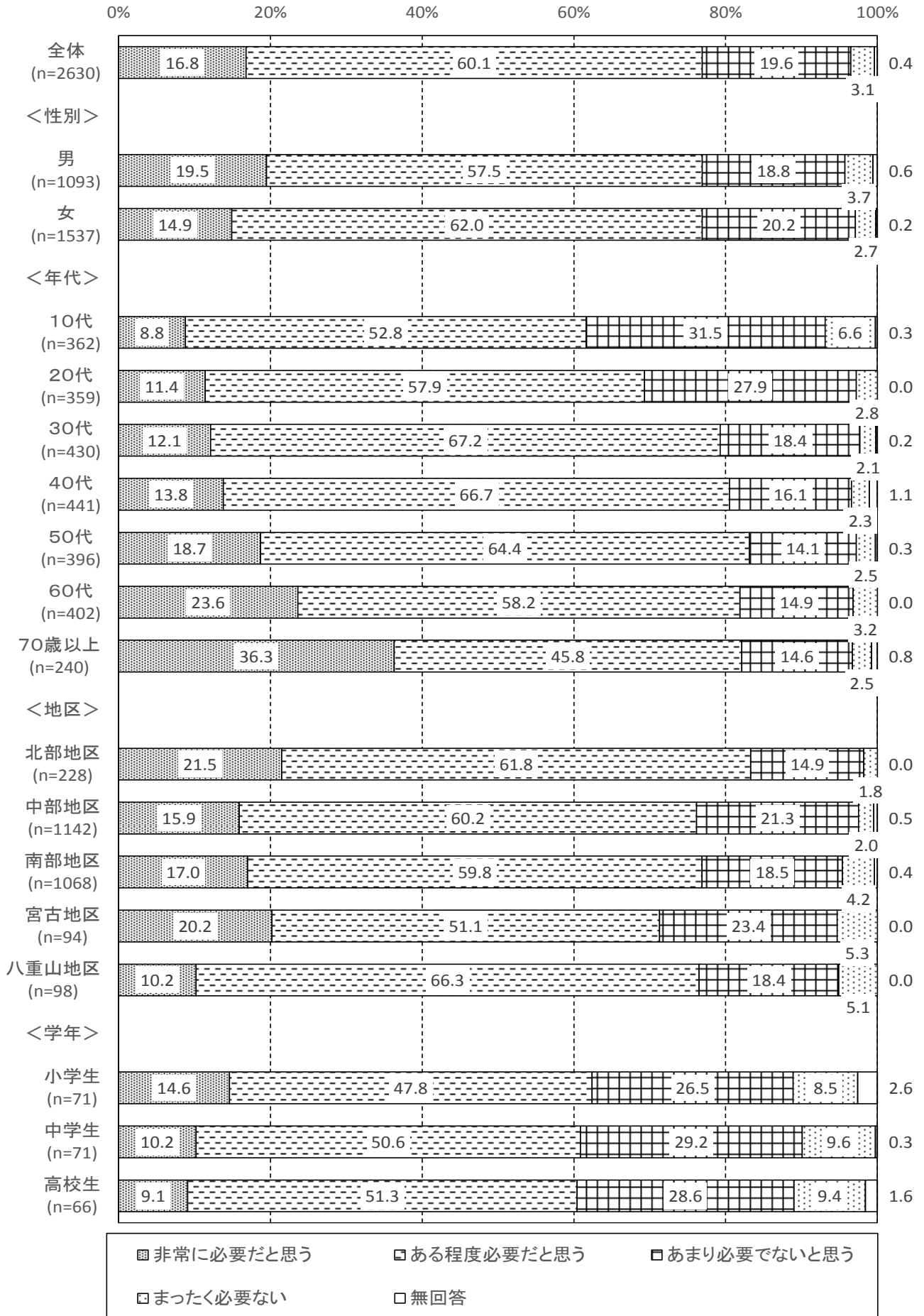
地区別でみると、北部地区では必要と思う割合が83.3%と全体や八重山地区以外の他の地区と比べて高くなっている。

学年別でみると、「しまくとぅば」の必要度は10代と同様の傾向にあり、学年の違いによる差はみられない。

図表22 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性（前回比較）



図表2-3 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性



10. 「しまくとぅば」の普及に必要なこと

「しまくとぅば」の普及に必要なことについてみると、全体では「学校の総合学習等での実施」が74.2%で最多、次に「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」が57.9%、以下大きく下回り「しまくとぅば講座を開設」が33.5%、「しまくとぅばスピーチコンテスト」が23.7%と続いている。

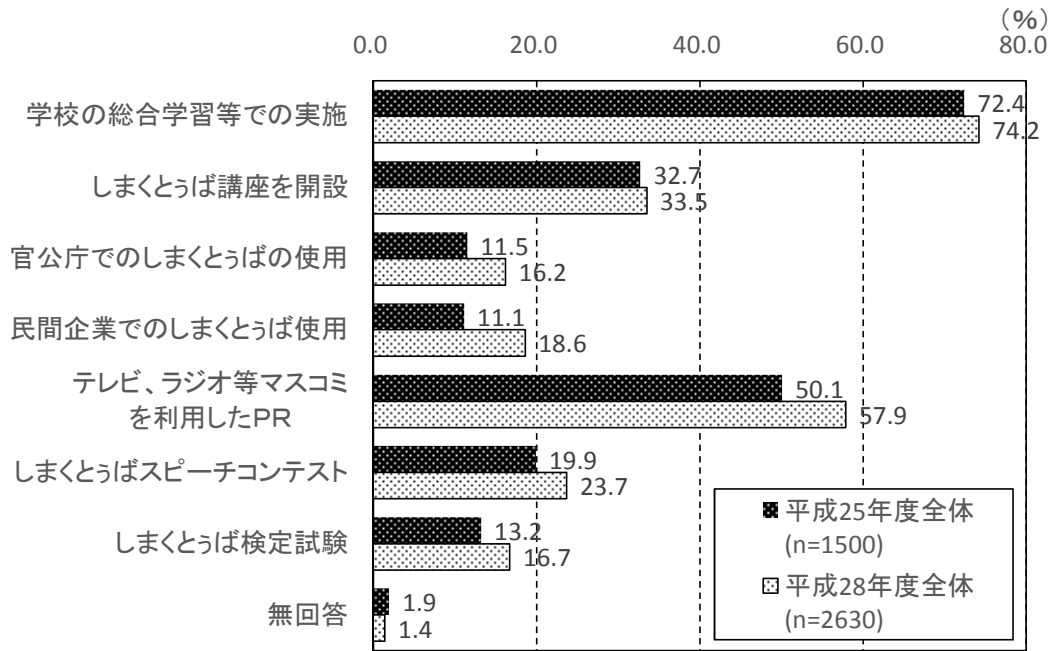
平成25年度の調査結果でも「学校の総合学習等での実施」が最多であるが、官公庁や民間企業、マスメディアでの「しまくとぅば」の使用やコンテスト、検定も普及において必要とする県民は平成25年度から増加傾向にある。

性別でみると、全体結果と同様に「学校の総合学習等での実施」が男女とも最多となっているが、「しまくとぅば講座を開設」については男性よりも女性の回答割合が高くなっている。

年代別でみると、全体結果と同様に「学校の総合学習等での実施」がいずれの年代においても最多となっているが、60代では「しまくとぅば講座を開設」や「官公庁でのしまくとぅばの使用」「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」「しまくとぅばスピーチコンテスト」への回答割合が全体や他の年代に比べて高くなっており、特に、「官公庁でのしまくとぅばの使用」「民間企業でのしまくとぅばの使用」「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」では年代が上がるにつれて回答割合が高くなっている。一方、10代では「しまくとぅば講座を開設」や「官公庁でのしまくとぅばの使用」「民間企業でのしまくとぅばの使用」「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」に対する回答割合が低くなっている。

地区別でみると、全体結果と同様に「学校の総合学習等での実施」がいずれの地区でも最多となっているが、北部地区では「しまくとぅばスピーチコンテスト」以外はすべて全体結果や他の地区の回答割合よりも高くなっている一方、宮古地区や八重山地区では全体結果や他の地区より回答割合が低い選択肢が多くなっている。

図表24 「しまくとぅば」の普及に必要なこと（前回比較）



図表25 「しまくとぅば」の普及に必要なこと

		サンプル数	学校の総合学習等での実施	しまくとぅば講座を開設	官公庁でのしまくとぅばの使用	民間企業でのしまくとぅば使用	テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR	しまくとぅばスピーチコンテスト	しまくとぅば検定試験	無回答
単位:%										
全体		2630	74.2	33.5	16.2	18.6	57.9	23.7	16.7	1.4
性別	男	1093	72.4	29.3	18.0	19.2	57.1	22.6	16.8	2.0
	女	1537	75.5	36.4	15.0	18.2	58.5	24.5	16.5	1.0
年代	10代	362	77.6	25.7	6.1	9.1	44.5	24.6	18.5	0.3
	20代	359	71.0	30.6	10.3	14.5	57.7	17.3	17.8	0.8
	30代	430	73.7	32.8	14.2	21.6	58.4	20.7	17.9	0.2
	40代	441	76.0	35.1	17.7	20.4	55.6	25.9	20.6	1.8
	50代	396	72.7	34.8	18.9	21.5	65.2	20.5	13.4	2.3
	60代	402	73.4	39.3	23.9	22.9	64.4	30.1	15.2	2.7
	70歳以上	240	75.4	35.4	24.2	18.3	59.2	27.9	10.4	2.1
地区	北部地区	228	86.0	47.8	25.9	38.6	68.4	28.1	23.7	2.2
	中部地区	1142	76.5	33.1	15.2	15.1	58.5	25.7	19.4	0.9
	南部地区	1068	71.7	32.5	17.7	19.8	57.7	21.7	13.2	1.9
	宮古地区	94	58.5	22.3	1.1	5.3	42.6	13.8	6.4	1.1
	八重山地区	98	62.2	25.5	4.1	13.3	43.9	20.4	16.3	2.0

1.1. 子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識

子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思うかについてみると、全体では「是非、使えるようになって欲しい」が29.2%、「できれば、使えるようになって欲しい」が53.0%となっており、これらを合わせると82.2%が何らかの形で子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと考えている。

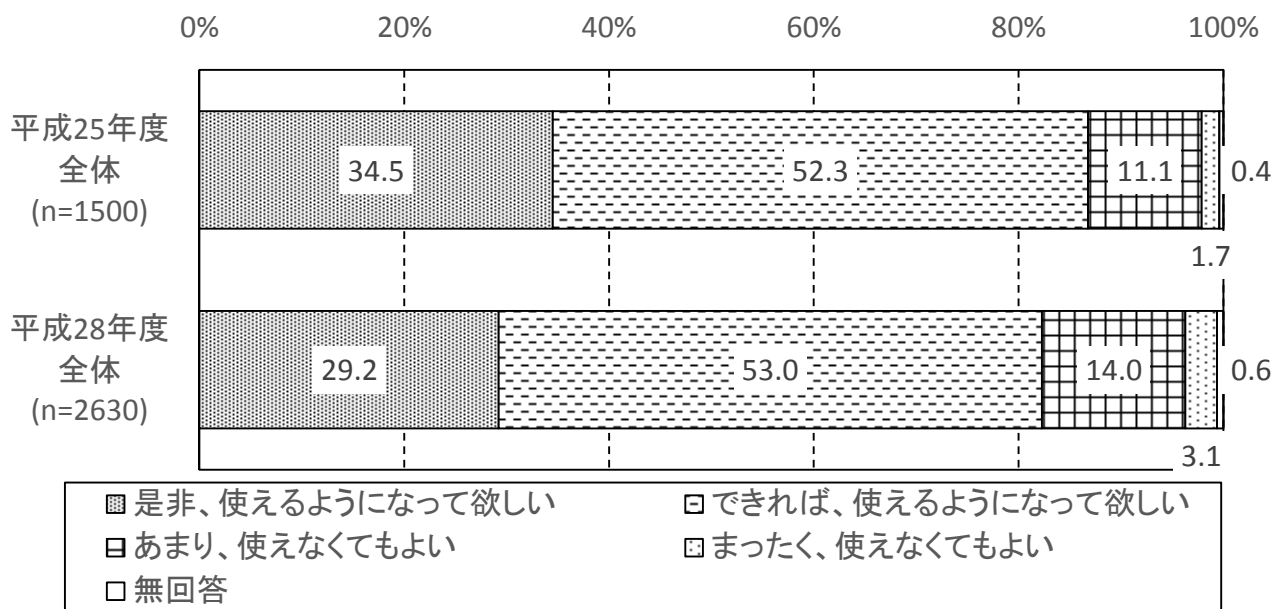
平成25年度の調査結果から「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと回答した割合は4.6ポイント減少し、使えなくてもよいと回答した割合は4.3ポイント増加するなど、県民の「しまくとぅば」が使えるようになることに対する意識は低下傾向にある。

性別でみると、男女とも全体と同様、「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思う割合は80%を超えている。

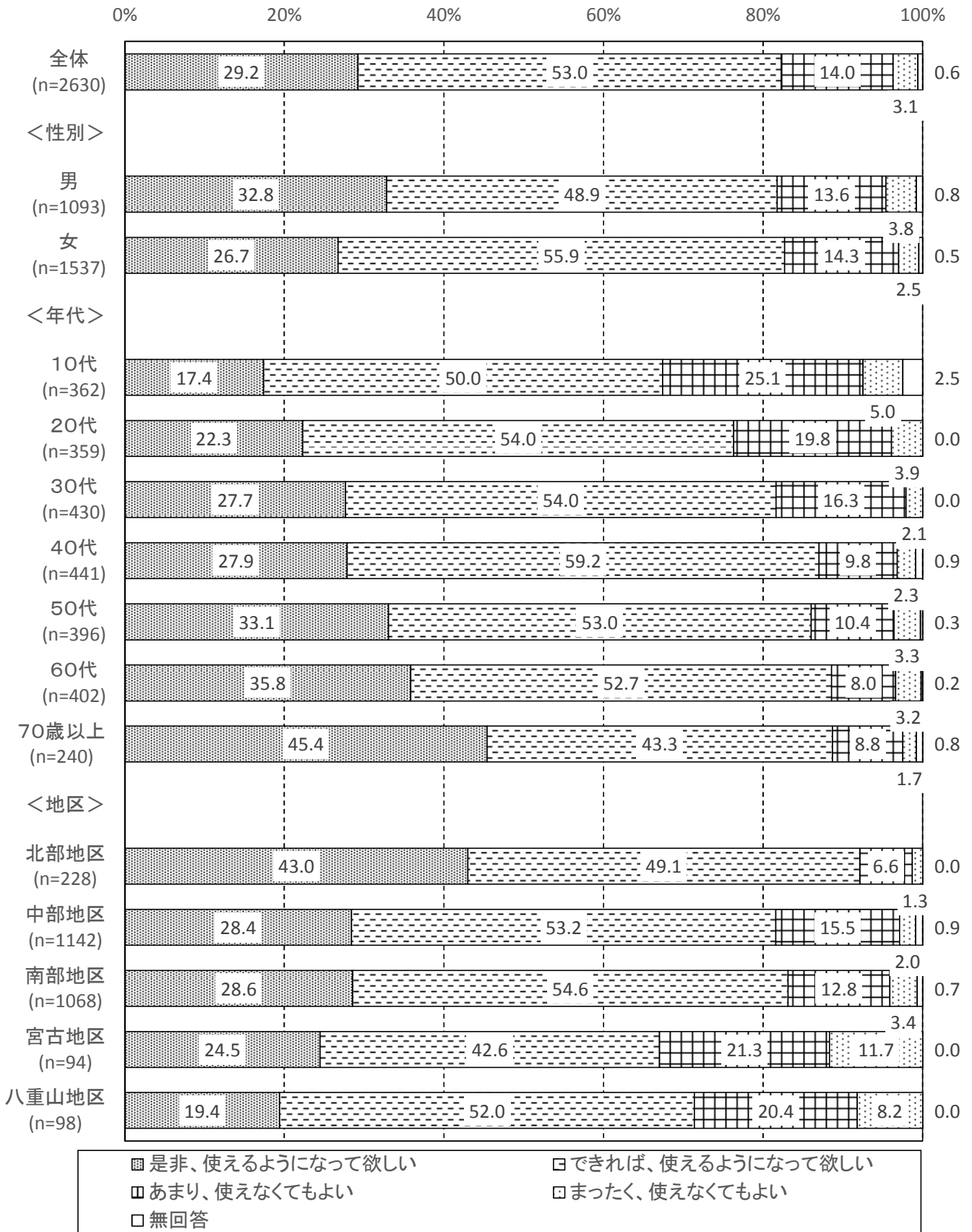
年代別でみると、10代～20代では「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思う割合が全体や40代以上に比べて低くなっているものの、40代以上では85%を超えている。

地区別でみると、北部地区では「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思う割合が92.1%と全体や他の地区と比べて高くなっている。逆に、宮古地区や八重山地区ではそれぞれ67.1%、71.4%となっており、全体や他の地区と比べて低くなっている。

図表26 子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識（前回比較）



図表27 子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識



12. 家庭内での「しまくとうば」への取り組み状況

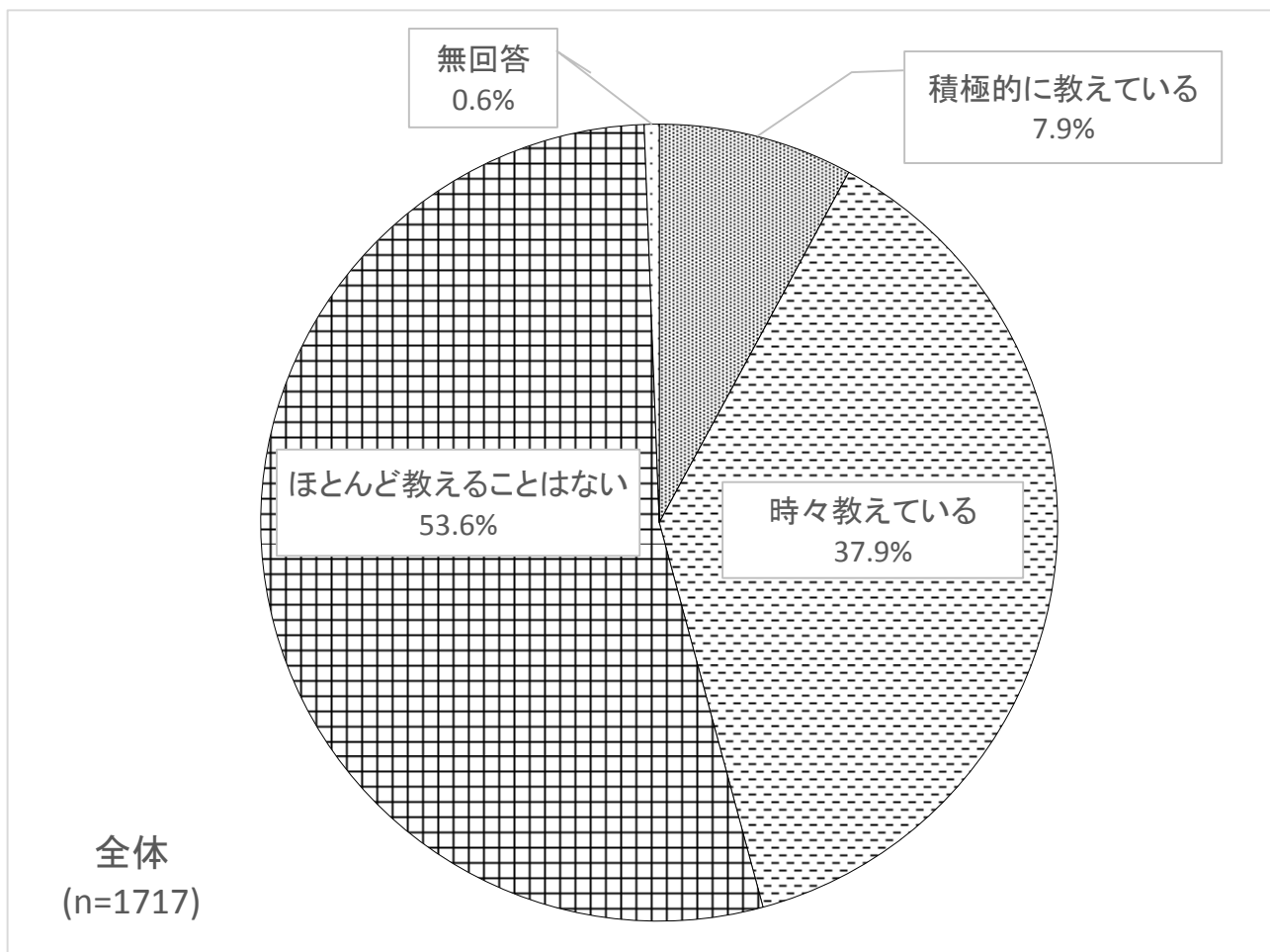
「子どものいる」と回答した1,717人に対して、家庭内で子どもに対する「しまくとうば」への取り組み状況をたずねたところ、全体では「積極的に教えている」が7.9%、「時々教えている」が37.9%、「ほとんど教えることはない」が53.6%となっており、「しまくとうば」を教えている割合よりも教えていない割合の方が高くなっている。

性別でみると、女性よりも男性で「しまくとうば」を教えている割合が高くなっている。

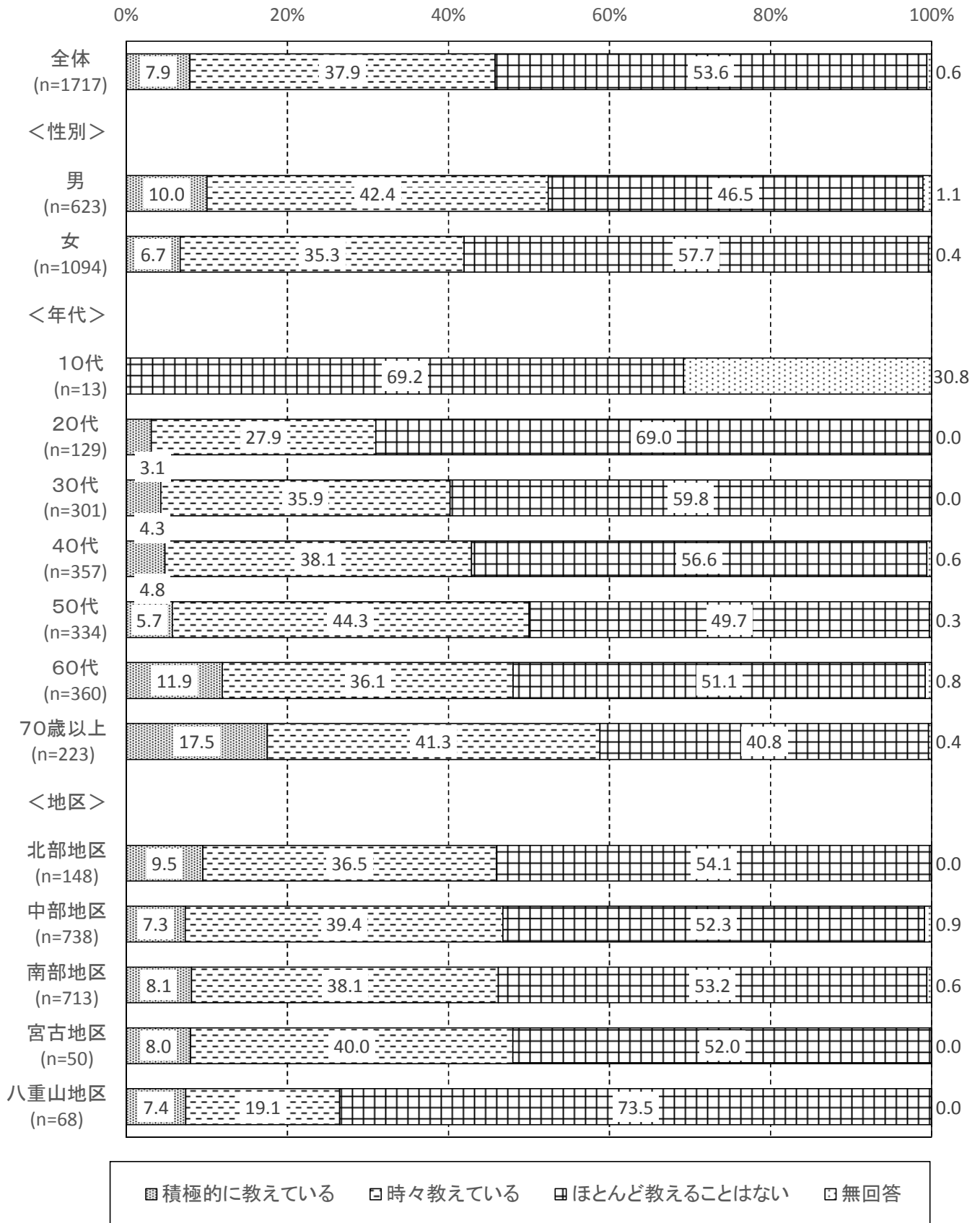
年代別でみると、20代で「しまくとうば」を教えている割合が31.0%と全体や30代以上に比べて低くなっているものの、70歳以上では58.8%と全体や他の年代と比べて高くなっている。

地区別でみると、八重山地区で「しまくとうば」を教えている割合が26.5%と他の地区と比べて低くなっている。逆に、宮古地区や八重山地区では「ほとんど教えることがない」と回答した割合が67.1%、71.4%となっており、全体や他の地区と比べて高くなっている。

図表28 家庭内での「しまくとうば」への取り組み実施状況（全体結果）



図表29 家庭内での「しまくとぅば」教育の実施状況



13. 「しまくとぅば」普及に関する意見

「しまくとぅば」普及に関する自由意見として、下表の意見があげられている。

図表30 「しまくとぅば」普及に関する意見

年齢	性別	地区	内容			
10代	男性	北部地区	方言をもっとたくさん知りたい。教わりたい。 丁寧な方言を使える様になりたい。			
		中部地区	方言をもっと使えるようになりたい 「しまくとぅば」を使う機会はないが、方言は大切だと思うので受けつがれてほしい。 まわりで使う人がいないのでよくわからない。 方言を聞いたり接する機会がない。 わからない。 学校の授業で教えて欲しい。 わかりづらいのでわかりやすく教えて欲しい。			
			南部地区	学校で家庭科の時間にきいたことがある。 学校で冊子が配られている。 テレビで「しまくとぅば」を流す時にわかりやすいテロップをつけて放送してくれれば自分たちにも理解し覚えていけるのに… 大事なものなので、頑張っけて覚えて、後世に伝えていきたい。 意味はわからないけど、聞いていると楽しい。 沖縄文化だからなくさないようにしたい。 「しまくとぅば」しか話さない場所を設ける等した方がよい。		
				北部地区	方言をたくさん使える様になりたい。 「しまくとぅば」は沖縄独特なのであった方がよい。地方・地方の言葉があってよい。	
					女性	中部地区

年齢	性別	地区	内容
10代	女性	南部地区	発音が難しい。
			沖縄で使っている人と使っていない人の差があり、びっくりした（県外から大学のため来ています）。
			小学校のクラブ活動で“しまくとぅばクラブ”に入っていたので勉強になりました。良かった。
			沖縄らしいなと思います！！ デパート等の店員にも使ってほしい。
20代	男性	北部地区	もっと普及して欲しい。
			楽しい時に使う「しまくとぅば」は良いが、怒った時の「しまくとぅば」はイメージが良くない。
			・おじ～・おばあ～・おとう～・おかあ～位しか使えないので、年寄りが方言で話かけて来たら困る事が多い。きれいな（丁寧）方言を言える様になりたい。
		中部地区	「しまくとぅば」をもっと普及して欲しい。
			お笑い芸人が使う方言は、おもしろい。
			自分自身があまり使えない。今後残していきたい気持ちはあります。
			普段の生活で必要性を感じないが、「しまくとぅば」は残してほしい。
			正しい「しまくとぅば」を使いたい。
			方言より共通語の方が大事だと思う。
			日頃は「しまくとぅば」を使わないが、簡単な言葉なら少しわかる。
			お笑いの芸人が話す方言しか知らない。
			覚えたいが、使える人が周りにいない。「しまくとぅば」の本を持っている。
			お年寄りとの交流の場を作り気軽に参加できる雰囲気大事。
			県外に行って困ったことがあるのである程度で留めてほしい。
			もっと広まってほしい。
			使えれば使いたいが、使う環境がない。
			言葉がいきいきとしている。もっと使える場があったらいい。
			使っている人との接触の機会を増やす。
		子供が小さいので教えてないが、方言がわかるようになったら教えたいと思う。祖父母と話せるように。	
		南部地区	失われる言葉なので小学校または保育園でも教えた方が良い。
			今後教える人がいなくなりつつある。
			講座を身近に増やす。
			「しまくとぅば」の小冊子を作成し、配布することにより、身近に感じることができるようになると思う。
			大人が使うようにすれば、子供達も使うようになると思う。
			最近、テレビで流れていた「しまくとぅば」のCMを一時的なものではなく長い期間を通して放送してほしい。みんな見ていると思う。
			方言に触れる回数が少なくなってきた。方言の「あいうえお表」しか最近は見ることがない。
			「何日は「しまくとぅば」を使う日」を設定し、全ての地域で「しまくとぅば」を使う様にする。
			「しまくとぅば」は大切なものだから残して行ってほしい。
話せるようになって損はないが、いずれ無くなると思う。			
国語の授業で取り入れてほしい。			

年齢	性別	地区	内容
20代	男性	南部地区	若者の間で使われている方言は乱暴なので使いたくない。仕事では年寄りを相手にしていて、その時使う「しまくとぅば」は良い効果がある。
			話せる人が少なくなったので、話せる人と話す機会を設けたほうがいい。
		宮古地区	介護の方はほとんどお年寄りで方言は聞けるが使えず、困ることがある。お年寄りの方とのコミュニケーションのためにも使えるようにした方がよいので、普及させて下さい。
	女性	北部地区	簡単な言葉ぐらい使える様になりたい。
		中部地区	聞いたらおもしろい。
			必要性を感じない。
			この先方言を使う人がいなくなるのは残念だから、何とか、残してほしい。
			方言の敬語をもっと普及してほしい。
			まわりに使っている人がいない。
			テレビで聞くらいしかわからない。
			「しまくとぅば」を小さい頃からあまり聞いた事がないので親しみが無い。
			もっと会話が楽しめる位になりたい。
			早口で言われると、まったくわからないが、ゆっくり言われると、なんとなくわかる時がある。
			まわりの先輩が使えるのを聞いているとうらやましい。自分も使えたら祖父母とも話せるのと思う。
			最近話せない人が多いので自分も含め使えるようになりたい。
			祖父母が標準語で話してきたので身につかなかった。
			地方によって違うからこれが「しまくとぅば」です、というのは無理だと思う。一定した「しまくとぅば」ってないと思う。
			自分もそれほどは使えないのでもっと使えるようになりたい。
			自分がわからないと思って年配の人が方言でヤマトウチュー（内地の方）かと言われるのでいいイメージがない。
		南部地区	家でも、学校で習った言葉を使うようにしている。
ラジオ、テレビなどで使ってほしい。使う人が増えると思う。			
残こしていくことは大事。			
失ってほしくない言葉。			
方言を使うことによってフレンドリーな関係になれると思う。			
保育園で発表会などは方言で劇をしています。いいことだと思います。			
普段の生活で耳慣れして使って欲しい（自然に使える様に）。			
日常生活に使う人が困りにいけば使うと思う			
自分も使えないし、「しまくとぅば」を聞く環境にもないので、難しいかなと思うが、残して欲しい気はする。			
老人の方たちと会話ができるような、ちゃんとした「しまくとぅば」を子供たちに教えてほしい。			
「しまくとぅば」に親しみが無いのでわからない。			
あまり興味がない。			
話せるようになりたい。			
少しは聞くことはできるが、話すことができないので、子どもたちが習ってきてても日常的に使うことができないし教えられない。			
30代	男性	北部地区	これからの子供たちは積極的に方言を覚えて欲しい。 もっと広がって欲しい（失くさないで欲しい）。

年齢	性別	地区	内容
30代	男性	北部地区	30代は方言があまりわからない。おしつけではなく、昔話の本とかで「しまくとぅば」が使われていたら良いと思う。エイサーとかからも、何となくしまくとぅばが伝わるので良い。これからの子供達にもうちなあ～口を代々伝えて行って欲しい。
			もっと方言（うちなあ一口）が「話せたり聞けたりする事が上手だったらいいのに」と思う時がある。
			大事にしてほしい。使えなくてもききとれる程度には（皆が）なってほしい
			まわりで使っている人がいないからよくわからない。
		中部地区	看板など、「しまくとぅば」で書いたら、目について覚えるので、広告など使って普及する。
			「しまくとぅば」に関心があるので祖父母にわからないのは聞くようにしている。
			沖縄人として教えてほしい。
			使える人が減っているらしいので、英語教室のような感じで、無料で教えてくれる教室があってもいい。
			なるべく使っていきたい。
			自分達は方言のつもりで少し使う言葉もあるか、はたしてそれは正しい「しまくとぅば」に入るのか疑問。
			もっと学校で義務的に教えてほしい。
			学校で勉強させる。
		きちんとした標準語が使えるようにした方がいいと思う。	
		南部地区	家庭で使えるようにする。
			残るものは残るので、必要な文化は自然に残ると思います。
			テレビなどでもっと方言をとり入れた番組を作ってほしい。
			「しまくとぅば」は大切だと思うので傳承して行ってほしい。
			あまり「しまくとぅば」はわからないけれど、受け継いで行ってほしい。
	方言を使う大人も少なくなってきたので、いつかは方言もなくなってきたしまうような気がする。		
	小さい頃に授業に取り入れてほしいと思った。		
	黄金言葉を大事にしてほしい（くがにくとぅば）。		
	地域違いが課題、現代的になって乱暴な方言は好きではない。		
	「しまくとぅば」を普及させる場所、環境を整える。かわら屋払。言葉だけを先行しようとしてもあまり伝わらない。		
	女性	北部地区	コンビニ等の掲示板等に一言でもいいので方言の言葉があったらいい。「ハイサイ・」とか...
			年配の方とのコミュニケーションの場があったら普及すると思う。
			「しまくとぅば」は消えて欲しくない。
			方言はおもしろいと思う。
方言は難しいので覚えにくいです。			
普及して欲しい。			
簡単なうちなあ～口（方言）は聞けるが、話す事は殆ど出来ないのもっとうちなあ～口を上手になりたい。			
アニメとかドラマとかで「しまくとぅば」を使っていたら自然に覚えるのでは！			
学校教育できれいな丁寧なうちなあ～口を教えるといいと思う。			
「しまくとぅば」（うちなあ一口）が使える方があまりいないと思う（自分の年齢には）。うちなあ一口はなくなって欲しくない。			
年齢	性別	地区	内容

30代	女性	北部地区	自分あまり使えないので子供に教えづらい。 難しい。 これからは島の方言も必要になると思う。 祖父母にも「しまくとぅば」を使うと喜ばれた。 方言がなくなると沖縄の伝統が失われると思う。 ステキだと思う。 悪い「しまくとぅば」を子供は覚えてしまうから、使う方は気をつけてほしい 「しまくとぅば」の講座を増してほしい。 もっと身近に感じられるようなイベントが必要だと思う。 コミュニケーションツールとして必要性を感じる。 まわりに「しまくとぅば」を使う人がいない。沖縄のテレビ番組で「しまくとぅば」とその意味をテロップで流してほしい。 いつまでも残してほしい。 最近、方言を使う人が減ってきていると聞いた。消滅しないか、心配。 祖父母が元気なうちに教えてもらって子供達に伝えたい。 沖縄の「しまくとぅば」は難しい。自分の出身地の方言の方が親しみを感じる。 「しまくとぅば」がもっと身近に感じられるようテレビなどで放送してほしい。理解できれば郷土を愛する心も芽生えると思う。 「自分自身が「しまくとぅば」を使えないので子供に教える事が出来ないのは残念です。 「しまくとぅば」は、なつかしさを感じる。祖父母を思い出す。 若い人が使う「しまくとぅば」は乱暴なものを選んで使っているのが好きになれないので、きれいで丁寧な「しまくとぅば」を使う工夫が大事。 ウチナー嫁になって「しまくとぅば」が好きです。 日常の言葉を残していくのは難しいので、昔から伝えられている「くがにくとぅば」（黄金言葉）や童謡を子供達に残してあげたらと思う 丁寧な「しまくとぅば」を教える場があればと思う。 今は思いつかない。 話せる人が少なくなっているのがなくなるのはさみしい。 使える場がない。 首里の方言はきれいだと思う。沖縄のタレント「しんちゃん」「川満せんせい」を起用して、面白いイベントを企画すれば、子供達も喜んで参加すると思う。 学校で教えて欲しい。本を発行する。 ふだん使わないので特に意識してないが、学校とかで教える分にはいいかな。 沖縄にきて3年位だが、少しずつ方言に慣れ、少しかける位で、会話はむり。沖縄の言葉は難しいが、残した方がよいと思う。 保育園で歌を習ったり、「いただきます」とかあいさつを習ってきているので、そういう時に教えるというか、おしゃべりしている。子供はすんなりおぼえる。 文化なので失くさないで欲しい。 子供達が聞けるだけでも良いと思う。 奥が深く難しい。		
		中部地区			
		南部地区	失くさないでほしいです。 病院に勤めているので聞くことはある程度できるが、話しをすることはできない。今のお年寄りがいなくなったら方言もなく		
		年齢	性別	地区	内容
		30代	女性	南部地区	失くさないでほしいです。 病院に勤めているので聞くことはある程度できるが、話しをすることはできない。今のお年寄りがいなくなったら方言もなく

			<p>なるのでは？心配です。</p> <p>だんだんなくなってきているので普及したら良いと思う。</p> <p>機会があれば勉強して分かるようになりたい。</p> <p>子供が使えるようになって欲しいので子供に対して影響力のある場所で、たくさん使ってほしい。</p> <p>学校のクラブ活動などで教えることにより、興味のある子たちは積極的に使うようになると思う。</p> <p>(宮古島出身)お笑い番組などを通じて本島内の「しまくとぅば」を知るようになったので若者向け番組を増やしてほしい。</p> <p>だんな様が沖縄で使っているの自分も使えるようになりたいです。</p> <p>自分のことばで子供達に教えていけたらいいなと思う。</p> <p>「しまくとぅば」は大切なので話せる様になりたいし、継承していく事はもっと大切なので、すごくいい事だと思う。</p> <p>話せる世代の人達が積極的に話して教えてくれるといいと思うし、子ども達にも生きた会話が伝わるのでは？と思う。</p> <p>地域によって違うのでへたに教えられない場合があるので難しい気がする。</p> <p>若い人が使っている変な間違っただ方言を正しくしていった方がいいのでは？</p> <p>話すことができたらいいなと思う。</p> <p>学ぶ場所があれば学んでみたい。</p> <p>継承していきたい。皆が使えるようになると良い。</p> <p>方言を使う機会がないと、どんどん忘れてしまいそうになる。</p> <p>核家族になって、生活の中で使うことがなくなっているの、しかたないのかも。</p> <p>毎日の生活の中で使う雰囲気大事。</p> <p>文化として大切にしてほしい。きれいな丁寧な言葉を大事にしてほしい。</p> <p>祖父母が子供達に教えるようにしている。</p> <p>多くの人との関わりを大切にする。おじー、おばーと交流。</p> <p>粟国のような小さな島でも、東と浜では方言が違うので、どういふふうに普及するかが問題。</p> <p>「しまくとぅば」は共通語に訳するのが難しいので、教えるのも難しい。まわりで使う人も減っているの伝えるのも難しくなっている。</p>
		宮古地区	<p>国語力を身につけた方がよい。</p> <p>宮古の方言はとても難しく、10年目でやっと少しずつ話せるようになった。日本の古い言葉もあるので、残していきたい。</p> <p>「しまくとぅば」の入っている歌が必要だと思う。特に西表島は内地の人が多いため地元でも「しまくとぅば」を使う人がいない。</p>
40代	男性	北部地区	<p>サービス業の中でも取入れ、仕事・家庭と県独自で取り入れたら良い。仕事で30代の方が「しまくとぅば」を使える人がいない。積極的に言葉を聞いて解釈出来る様に勉強して欲しい。</p> <p>方言でしか表わせない言葉があるので、うちなあ～口は失くしてはいけないと思う。</p> <p>「しまくとぅば」を使える方(高齢者)がだんだん少なくなっていくと思うので、今の内に子供達に教える様にしないとダメだと思う。</p>
年齢	性別	地区	内容
40代	男性	北部地区	「しまくとぅば」を失くしてはいけないと思う。
		中部地区	「しまくとぅば」の継承。
			パーソナリティーとか漫才で使っているのは、うちなあ(ア

			<p>レンジされている)。本当の「しまくとぅば」は敬い語である 「しまくとぅば」は大切だと思う。是非残していきたい。 「しまくとぅば」が普及する事を願う。 消滅しないか心配。ぜひ普及するよう考えてほしい。 「しまくとぅば」を統一して作りあげても楽しいと思う。 老人に対して正しい使い方がわからなければ、「しまくとぅば」 を今の若者は使ってほしくない。 年配者の言葉。現在の若者の方言はまったく違う。 家庭内でも教える。 「しまくとぅば」はなくしたらいけない。次世代迄守るべき。 「しまくとぅば」を使える人も少なくなってきたおり対策が必要。 「しまくとぅば」が分からなければ民謡の歌も理解できない と思うから。 宮古島の出身ですが、親の転勤などで本土の生活が長かった。 共通語のみ。 親や親戚の人から、教えてもらって方言をもっと使いたい。 まわりに方言を使う人がいるのといないのはだいぶ理解度が違 うと思う。 急に言われても答えられない。 「しまくとぅば」をなくしたらいけないと思う。 「しまくとぅば」を残して行ってほしい。なるべく使うように している。 なくなるのは仕方がない。 子供達には「三線」等民謡を教えると覚えやすいのでは。 考えたことはない。 学校でぜひ教えてほしい。 普及はしてほしい。 末長く残っていてほしい。 子供達に分かるようになってほしい。 子供が幼稚園で習ってくるので、おもしろいと思う。 敬語がとても難しいと思う。</p>
		南部地区	<p>やわらかい言葉である。 おばあちゃんがいるけど、自分たちにあわせて方言は使って いません。使っていたら自分も現在使えるようになっていたかも、 残念です。 沖縄の文化にとってとても必要な言葉である。三味線をひいて 歌うとき「しまくとぅば」を理解していると味わい深くなる。 使えない世代なので特に必要を感じないし、子どもに教える事 も出来ないの。 「しまくとぅば」より英語などの普及に力を入れて欲しい。 実際に話せる人がいないのでその機会を作って教える（聞き取 れる程度で充分なので）。 地域によって違うので難しい。伝わらない。 子供たちに受け入れられるような分かりやすい「しまくとぅば」 のテレビ番組をもっと作って！ 「しまくとぅば」は残さないといけないものだと思う。自分た ち世代が分岐点であると思っているので大切にしていきたい。 子供の世代では正しい「しまくとぅば」を使ってほしい。 家の中で方言を使うようにする。</p>
年齢	性別	地区	内容
40代	男性	南部地区	<p>方言を禁止にしていた時代がなければもう少し話せたかも。 学校で授業があればいいかな。 じいちゃん、ばあちゃんが積極的に方言を使い、それを子供達</p>

			<p>が聞いて自然に身につくことだと思う。</p> <p>今後は家庭でも使わないからなくなっていくと心配している。自分達も使わなくなった。</p> <p>「しまくとぅば」を残す意味が分からない。「方言」を使うなど教育されて育ってきているので今さら子供達にも無理がある。それよりは世界共通語に力を入れるべき。</p> <p>残すべき言葉、きれいな方言は残る。</p> <p>国語の授業として小学校で取り入れる。</p> <p>地域によって違いすぎる。</p> <p>無理して習う必要はないと思う。中国語、韓国語を習った方がいいと思う（方言よりは）。</p> <p>県外の人が多い島なので共通語が多くなるが、やはり島の言葉は残していきたい。</p> <p>「しまくとぅば」は難しいのが、できたら話せるようになりたいので、分かる範囲で教えるようにしている。</p>			
	女性	北部地区	<p>丁寧な島の方言を子供たちに教えて欲しい。</p> <p>講座と言ったら重くなるので、イベント等で「しまくとぅば」が使われたら良い。まずは、時間的に短い言葉からスタート（単語）。</p> <p>「しまくとぅば」をしゃべれる環境があったら良いと思う。「しまくとぅば」の標語があったら良い。</p> <p>あまり使わなくなっているが失くしてはいけないと思う。家庭を中心に教えて、取り組むことが大切と思う（地域で違いがあるから）。</p> <p>子供の時から方言を大事にしてほしかった（使ったら怒られた）。</p> <p>方言（しまくとば）を失くしてはならないと思う。</p> <p>実家では使われているが、ここでは使われてない。残した方が良い</p> <p>おじ～、おばあ～と話す時に「もっと方言が話せたらいいのに」と思う時がある。</p> <p>学校の授業の一つとして教えて欲しい。</p> <p>「しまくとぅば」をずっとずっと失くして行かない様に皆できれいな方言でおしゃべりしてほしい。</p> <p>自分自身もきれいな方言を習いたいです。「ハイサイ」だけしか言えない。</p>			
			中部地区	<p>子供が学校で「しまくとぅば」のクラブに入っていて、自分はまったく分からないが子供達が話せるので子供同士の会話は面白い。</p> <p>老人相手に勉強会。</p> <p>年配の方々に教えて欲しい。</p> <p>仕事上使わないといけないので方言は必要だと思う。</p> <p>話すとなると難しい。</p> <p>方言を忘れないよう、使いたい。消滅させてはいけない。</p> <p>分からないよりは理解していたほうが良い。</p> <p>老人などと話せるようになりたいと思う。教材がほしい。</p> <p>テレビを見て見近には思うが、あいさつ程度しかわからない。</p> <p>使えなくても「しまくとぅば」の意味は知りたいので、テレビなどで見聞きできれば良いと思う。</p>		
年齢				性別	地区	内容
40代				女性	中部地区	<p>良い「しまくとぅば」は覚えて子供にも今後教えたいと思う。</p> <p>今後積極的に使っていきたい。</p> <p>なるべく使うようにしたい。この前、子供が足をぶつけて方言</p>

	<p>でアガー（痛い）と言ったので家族で笑った。</p> <p>少しは「しまくとぅば」を使うよう心がけている。</p> <p>「しまくとぅば」も大事ですが、共通語を使っていきたい。</p> <p>自分自身が「しまくとぅば」を使えれば子供に教える事もできるがよくわからないので…。</p> <p>沖縄の伝統文化として受け継がれて行ってほしい。</p> <p>「しまくとぅば」は代々、引き継がれて行ってほしい。</p> <p>いつでも「しまくとぅば」に接する環境が必要。元気なお年寄とのコミュニケーションやテレビなどで親しみを感じる事ができるようにしてほしい。</p> <p>絵本やカルタだと覚えやすいのでは。</p> <p>自身が生まれた島の言葉は大切なので、子供達にも方言は分っていた方がいいという事を常々話している。</p> <p>「しまくとぅば」にも目上の方への話し方や男性の言い方、女性の言い方など色々難しく、なかなか学ぶのに勇気がいる感じがします。「しまくとぅば」が分かったからと簡単に使うと失礼になったりするのでは…と思い、使うのに躊躇してしまいます。</p> <p>自分ができないので子に教えられず難しい。地域で違うので難しい。</p> <p>なるべくなら孫の代まで使えるようになってほしい。</p> <p>場所や地域によって違うので、同じ言葉を教えるのは困る。</p> <p>若い人にも意味をわかって使えるようになってほしい。</p> <p>身近にイベント行きたい。</p> <p>問13の①、⑤</p> <p>方言をもっと教えるべき、検定をすべき。</p> <p>年配の人の言葉はやわらかいが、ふつうの方言は荒っぽくて少しはずかしいが、方言は残した方がいいと思う。</p>
南部地区	<p>官公庁でぜひ使ってほしいと思う。</p> <p>地域によって違うので、その違いを知るチャンスがあればと思う。</p> <p>講座はどこでやっているか知りたい。学校の生活（授業）の中に取り入れてほしい。</p> <p>話すことはできないが、残していかないといけないものだと思う。子供のうちに学校などで教えてほしい。</p> <p>テレビやラジオでもっと「しまくとぅば」を使った番組をやってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>おばあちゃんなどが孫にも方言を使ってほしかった。今の時代も使える人が多くなっていくかも？</p> <p>テレビ等で使用する時でも言葉の意味を解説してほしい。</p> <p>保育園から子供たちに親しむために教えてほしい。</p> <p>面白おかしくてもいいからテレビなどで方言を伝えてほしい。子供達に興味をもってほしい。</p> <p>「しまくとぅば」講座が人気があると聞くのでもっと開設してほしい。</p> <p>琉神マブヤーなど、子供達がよく知っているキャラクターや人物により興味を示すようになるので、もっとマスコミを利用した方が良い。</p> <p>自分達も話せない世代なので子どもに教える事は出来ない。</p>

年齢	性別	地区	内容
40代	女性	南部地区	学校でもっと力を入れて欲しい（親が使えないので教えるのは難しいから）。
			お年寄りとの交流をもっと増やすと話す機会が増えると思う。
			年寄りのしまくとぅばと学んでいる言葉が違うのでとまどう。年寄りを活用しての講座にした方がよい。
			自分が使えないので子どもに教える事はできない。
			若い時ははずかしいイメージがあったが、大人になったら使えたら良かったのと思うので、子ども達には使える様になると良いと思う。
			家では子供に聞かれた時に教えているが、学校でもっと「しまくとぅば」を教え、正しい言葉を覚えてほしい。
			これから「しまくとぅば」を使えるようになりたい。
			私も使えるようになりたい。
			敬語とか難しいので教えてほしい
			「おじー」「おばあー」の表現は好きです。覚えた方言です。「おじー」「おばあー」の方言、読み聞かせ等をして子供達に聞かせてほしい。
		宮古地区	きれいな「しまくとぅば」だといいと思う。中国語と似ているので難しい。方言は使うなど教えられたので難しい。
			まわりのお年寄りとの交流をもっと行い、生活に根ざした言葉を使うことで継承につながると思う。
			あまり聞くこともなく、話せる人も少なくなっている。継承していくのであれば、話せる人がいる間に話せる人と会話をする機会を増やしたほうがよいと思う。
			単語くらいなら教えられるが、会話となると難しいので話せる人との交流をやるといいと思う。
			聞くことはできるが、話すことができない。仕事場ではあまり使わない。年配の方には話せるだけ話す。
			本島～離島で違うので、違いを分かりやすくしてほしい。
50代	男性	北部地区	地域で「しまくとぅば」が違うので、各市町村は伝統を受け継いで欲しい（学校とか公民館で教える等）。
			方言は発音が悪くなるので使わない方がいいと思う。
			すぐ地域がわかる大事な言葉だから島の財産である。これがなくなったら島の文化が失われる。
			普段の生活から「しまくとぅば」に慣れ親しんだら抵抗なく伝わると思う。
		中部地区	出来たらこれからも「しまくとぅば」を残して行って欲しい。
			学校教育のカリキュラムに入れて欲しい
			テレビで使う時、ちゃんとした丁寧なうちな一ぐちを使ってほしい。
			もっと積極的に教えて子供にも島のことばを使って欲しい。
			民謡など音楽に「しまくとぅば」を使って普及させれば良いと思う。普段の生活ではあまり使わないから。
			方言が消えてほしくないが、首里方言など古典が大事なので首里方言を普及させてほしい。
日頃から話せる人がまわりにいないと使うのはムリだと思う。以前は親や親戚などの高齢の人が使うのを聞きながら自分も使っていたが、最近は使いたくても使える人が少なくなっている。			
子供から聞かれたら、分かるのは教えた。			
年齢	性別	地区	内容

50代	男性	中部地区	子供や孫に伝えていきたい。
			「しまくとぅば」は大事にしていきたい。
			琉球語として大切である。大和語として方言ではない言語として授業にしっかり取り入れてほしい。文・本を大切にしてほしい。
			私達の世代は小学校の頃から“共通語”教育を受けています。ある程度方言が使えても聞き取りが意味不明の時も、ぜひ参考を！！私だけかも？
			子供達も「しまくとぅば」が使えるようになってもらいたい。
			子供や若い人達が使う半分方言の様な言葉が気になる。
			できるだけ絶やさないで継承して行ってほしい。
			もっと使う機会を設定してほしい。
			宝である。
			全員が使えるようになってほしい。
			方言を励行する。
			昔の丁寧なきれいな言葉を普及させて欲しい。
			面白い方言だと思う。
			アイデンティティで佐藤優が沖縄は言葉からと言われている。
			田舎（宮古）の言葉は残すべきである。
		南部地区	マスコミ、学校などが率先して使うことにより、子供達が興味を持つと思う。
		できれば正しい「しまくとぅば」（うやまうような）を子供達に教えてほしい。	
		失ってはいけない。ラジオ番組をもっと長く放送してほしい。（民よりの番組）	
		きれいな「しまくとぅば」を残してほしい。	
		県外の人間からすると差別的な言葉が多い気がする。	
		普段使わないので話せないが、「しまくとぅば」が無くなるのは寂しい。使える様になり、残した方がいいと思う。	
		「しまくとぅば」は大切だろうけど、現状のままでいいんじゃないかな？	
		方言は汚い言葉だと教えられた。	
		伝統を守るためにも必要不可欠だと思います。	
		無くなりつつあるのが残念。	
		積極的に使っていきたい。	
		生活の中で使えて、なくなってしまうのはほしくない。	
		共通語を使ってきたので、聞く事は出きるが話す事はない。習慣だと思う。	
		「しまくとぅば」講座が無料だといい。	
		方言を残してほしい。きれいな方言を使ってほしい。方言の芝居を多くした方がいいと思う（きれいな方言で）。テレビで方言の字幕があってもいいと思う。	
自然に身に付くものであって無理にやっても身に付かないと思う。			
年寄りと交流することで使えるようになると思うので、年寄りとの交流をもっとやるべきだと思う。			
宮古地区	核家族になっているので聞く機会、しゃべる機会が少なくなっている。昔は自然に身についていた。		
言葉は会話の中で身につくので、家庭で使うようにするといい。			

年齢	性別	地区	内容
50代	女性	北部地区	「しまくとぅば」は失くして欲しくない。テレビ等で子供達に教える場を作って欲しい。
			丁寧なうちなあ口を教えて欲しいです。
			方言（うちな～口）はあまりきれいな言葉（丁寧さ）がないので、きれいな方言を言える様なら使ってもいいと思う。
			使いたいが、まわりがあまり使わないし教えるのも難しい。
			なるべく皆が使えるように広めてほしい。
			汚い方言は使って欲しくないです。
			しまくとばを使える方は相手（子供等）に合わすのではなく、進んで使って欲しい。子供達が悪いしまくとばを覚えるので、「いちゃりば兄弟」等の名言・方言の歌を通してやると覚えると思う。
			きれいな、丁寧なうちな～ぐちを広めて欲しいです。
			「しまくとぅば」は一つでは言い表せない意味があり、温かみもある。学校の先生も勉強して欲しい。以前は「しまくとぅば」を使うと恥ずかしかったのですが、今は娘が「しまくとぅば」に興味を持って教えてと言うので、本を借りたりして調べている。
			うちなあ～ぐちはほとんど使わないけど、これからの子供達は使える様になって欲しい。
		きれいな方言を教えて欲しい。	
		中部地区	あまり意識せずに使っていたが、子どもたちも少しは話せた方がいいと思った。
			「しまくとぅば」教室等があればいいな。
			正しい（良い言葉）であれば普及して欲しい。
			紙芝居を子供達に見せる。
			方言での敬語が難しい！
			子供達にも島の言葉を使えるようになって欲しいと思います。
			敬う言葉（方言の敬語）の勉強や講座を持ってほしい。
			特にないけど保存したいと思う。
			特に無いですが失くしてほしくない。残してほしい。
			伝統文化として受け継がれてほしい。
			「しまくとぅば」はまったくわからないので、使われても困るが失われても大変だと思う。
			「しまくとぅば」を使える人が少なくなっているのが心配。
			「しまくとぅば」を守って行ってほしい。
			子供の頃は親せきの人など、まわりが方言を使っているのはよく聞いたが、最近は高齢の人いなくなりあまり聞かなくなった。
			「しまくとぅば」を使える人が増える様、テレビを利用した講座や番組が必要。
			方言は大切な次世代に残すべき言葉だと思うが、方言を知らない人の方が多く使いつらい。
仕事でお年寄りがいらっしゃるので教えてもらっている。「しまくとぅば」は大切にしていきたい。			
（言語は1度消えると復活は難しいので残して行ってほしい） （アナウンサーとかテレビに出る人が正しい「しまくとぅば」を学んで、TVなどで使えば関心が集まると思う。			
学校の授業で学ぶ、テレビなどで「しまくとぅば」に触れる機会をたくさん作る事が効果的だと思う。失くさないでほしい！			
生活の中で使えていければよい。			
敬語が使えるようになりたい。			

年齢	性別	地区	内容
50代	女性	中部地区	広報していくことが大事。
			県民として「しまくとぅば」は大切に思っているのでぜひ今後も残していけたらと思う。
			沖縄文化として大切だと思いますが、専門の方だけでいいと思う。「しまくとぅば」の前に正しい標準語を教えてください。また沖縄県は観光をPRするにあたり語学の面において、英語、韓国語、中国語等に力を入れるべきだと思います。
			「しまくとぅば」の丁寧な言葉は好きだが、乱暴な言葉は好きではない。
			まずは学校で英語より「しまくとぅば」を教えてください。
			使える人が少ないので、残す方向にいてほしい。
			自分達も知らないから簡潔なのがあったらいい。
			使えた方がいい。
			必ずしも必要ではないが使えるようになってほしい。自分の文化を知らない文化度が低いと感じる。
			失くさないようにしてほしい。ユーモアがあって生々としている（活いきいき）。
			身近で使っていくべき。
			道路標式や横断膜などに方言を書いて！目のつく所に「しまくとぅば」をもっと増やす
			方言がなくなるのが心配、受け継がれてほしい。
			心のひだの想いを表わす言葉があるのが方言。例えば、ありがとうは→に（北）父ふえー（南）母に感謝するという意味。深い言葉なので大切にしたいし残したい。
			学校行事で参加した。子供もおもしろがってならいたがる
			私たちの時代、方言ははずかしい言葉と教えられてその意識があったが、この何年かで少しずつ方言が認められるようになり、残していきたくなくなった。
			最近テレビで「しまくとぅば」のPRを見たので好感がある。
		単語のようなのは使うが、ちゃんとした「しまくとぅば」は難しい。教えるのも大変だと思う。	
		孫が保育所で習って、「くわっちーさびら」（いただきます）と使っていたので感動した。小さい時から教えること。本気で取り組んでほしい。	
		今の職場で老人に対して「しまくとぅば」が使えるとコミュニケーションが取れるから必要だと思う。	
		南部地区	楽しい言葉を選んで使えるようにする。
			地方によって違うからそれをもっと知らせる事。
			身近に方言を使う人が少なくなって寂しい。
			方言を話せる人が方言を意図的に使って退化するのを防いでほしいと思う。
			テレビなどでももっと広めてほしい。
			課題があります。小中学校で指導の仕方に迷いがある。どの地域の方言を基準にしたら良いのかなど。
			ラジオはみんなが聞くと思うので「しまくとぅばの番組」があってもいいと思う。
子供達にぜひ使えるようになってほしい。すばらしい言葉である。感情表現が的確である。			
生活の中で使えるようになってほしい。文化として残してほしい。感情表現ができるようになってほしい。			
子供達には積極的に使う事で覚えていくので、なるべく使うようにしている。			
子供達と1日中「しまくとぅば」だけで交流する行事等を行政が行なう事があれば良いですね。			

年齢	性別	地区	内容		
50代	女性	南部地区	共通語（正しい日本語）をきちんと使えるようになる事が先決。いい言葉なら使ってもいいと思うが、地域によっては乱暴な言葉（方言）しか使えない所もあるので、あまり良いとは思えない。		
			しゃべりたいけど「しまくとぅば」は分らない。年寄りには必修だからしゃべれた方がいいな。		
			もっと若い世代にも「しまくとぅば」を使ってほしい。		
			絶対失くしてはいけない言葉！		
			「しまくとぅば」は失くしてほしくない。		
			大切にしてほしい。		
			方言を大事にしてほしい。		
			地域の行事を通してやるのはどうか、方言の統一制が必要？		
			大切にしていきたい。		
			子供に本を買うように言っている（「しまくとぅば」の本）。自分でも方言は難しいと思う。		
			身近に感じない。聞く事はできるがしゃべれない。		
			宮古地区	学校でお年寄りとお話ができる位に教えてほしい。	
		60代	男性	北部地区	ほとんどうちな～口で話しています。楽しく話をする事が出来ていいですよ。
					統一するというのは不可能だから共通で教えられない。
強いてまで教える必要はないと思う。方言は丁寧ではないので。					
永く子孫に残してほしい。					
共通語と両方使えると自分達の文化を守っていける。					
ずっと失くさないようにこれからもやっていってほしい。					
「しまくとぅば」は残して欲しい。					
「しまくとぅば」は面白いです。絶対に失くしてはいけないです。					
汚い言葉を使って欲しくない。丁寧なうちなあ～口教えて欲しい。					
中部地区	小学校、中学校、高校、世の中に。				
	敬語を教えて欲しい。きれいな言葉を教えてやりたい。				
	家庭内で話す。				
	「しまくとぅば」が消えないよう、子や孫達にこれからも話かけたいと思う。				
	共通語の方が自分にとっては難しい。				
	大切だと思うけど必要性を感じない。				
	スーパーなどの名称に「しまくとぅば」を使ってほしい。				
	できるだけ県民が使うようにしてほしい（特に高齢の方言が使える人）。				
	なるべく話すようにはしている（子や孫達に）。				
	だんだん方言が使える人が少なくなっていくのでさびしい気持ち。				
	最近選挙のお願いの訪問ばかりでうんざりしていたが、沖縄の文化である「しまくとぅば」のアンケートは大歓迎です。				
	聞かれたら教えたいとは思っている。				
	「しまくとぅば」が消滅しないようお願いしたい。ウチナー芝居が最近見られないのが残念。				
	敬語をしっかりと覚えて使ってほしい。				
	「しまくとぅば」をもっと使って後世に残してほしい。				
	やっぱり沖縄人だから誇りなので広めたいし、皆が使えるようになってほしい。自分は孫にも教えている。				
年齢	性別	地区	内容		

60代	男性	中部地区	言葉は島々の言葉だから一つの文化としてあってほしい。
			サークルや講座があれば是非参加したい。県外生活が長かった為、目上の人に使う敬語を学びたい。
			「しまくとぅば」の普及について研究する機関を作ってもらいたい。
			方言を否定ではないが使うなと教えられた年代。文化としては基礎的なものがあると思うが、方言札で教育されてきた。そのおかげで自分のような人間がいる。今の変わりようは何かと、逆に聞きたい。
			小さい時は方言を使うと怒られたので、ほとんど共通語を使う。それでも方言は目上の人と話すときには方言がいいときもある
			方言はなくなっちゃいけない。生まれたところの言葉は大切。孫から教えてといわれるとうれしい。
			普及は今さら遅いと思う。
		今の子供達に島の方言を教えて欲しい。	
		南部地区	子供のころに方言を使っていて、標準語に変えるのに苦労した。方言を教えるよりも英語教育をした方が良い。
			絶対に失くしてはならない。
	積極的に使うこと。		
	歌で覚える。		
	地域行事を大切にすればよい。		
	アイデンティティーを忘れないでほしい。		
	きれいな方言を使えるようになってほしい（ていねいな）。		
	長いこと本土にいたので方言にはなじみがない。標準語があれば良いと思う方言はいらない。		
	テレビや（国立劇場等）劇場での放送や上演で「しまくとぅば」をもっと多く、分かりやすい表現で紹介してほしいです。		
	孫達と一緒に学ぶ事・場所があれば良いです。		
	子供達に学校の授業でもっと方言を教えてほしい（物の名称など簡単な言葉からでも良い）。		
	首里の言葉を残してほしい（しまくうとば）。		
使える年代の人が少なくなってきている。自分の時代には使用してはいけなかったのが、今の時代みんなが使えるようになってほしい。			
統一した方がいい（地域によって言葉が違うので通じないから）。			
話せる人が少なくなってきて、これからの人達には難しいので継承も難しいと思う。			
もっと「しまくとぅば」をPRして、子供たちにもきれいな言葉を残して行ってほしい。			
後生に残してほしい。			
国語の時間に取り入れたらいい。			
語彙を多くして本を読む事が大事。			
大切にしてほしい。保育園児が「ちゃーびらさい」って言うからとってもかわいい。			
自分がしゃべれないので教えるのは難しい。			
女性	北部地区	本当は大人がきれいな沖縄口（方言）を言わないといけなくて気をつける様にしたい。	
		「しまくとぅば」が使われている音楽とかに興味を持つと自然に覚えるのでは！	
		「しまくとぅば」は失くさないで欲しい。なくなると淋しい	
年齢	性別	地区	内容
60代	女性	北部地区	方言を使って欲しくない。きれいな言葉ではないと思うので。

	<p>地域の方が言がキツイので、きれいな方言を言って欲しいです。 (地域の方に！)</p> <p>沖縄方言(うちな一口)をこれからも残して行って欲しい。忘れない様に若い方も使った欲しいです。</p> <p>方言を使える(わかる)人が今はいない(あまりいない)ので、皆が方言を覚えるといいと思う。</p> <p>若い方も使える様になったらいいと思う。</p> <p>もっとテレビ・ラジオ等を使って「しまくとぅばでお話しましょう」とPRして欲しい。</p>
中部地区	<p>そもそもなぜ今「しまくとぅば」なのかよく分からない。</p> <p>これからの子供達にはしまくとぅばより国際的な言葉が使える様に！</p> <p>発音が難しいと思う。</p> <p>使わないと忘れるので、今後は積極的に子供や孫達に話かけたい。</p> <p>まわりが共通語しか通じないので話す事は難しい。</p> <p>方言を聞くとホッとするので子や孫達に教えたい。</p> <p>方言を使うと共通語の発音やイントネーションがおかしくなるので使いたくない。</p> <p>老人の方に「しまくとぅば」を多く使ってほしい。</p> <p>子供達が自由に使えるようになってほしい。</p> <p>皆がしゃべれる環境を整えてほしい。</p> <p>女性は「ハイタイ」と言うことを最近知った。男性は「ハイサイ」と言うらしいです。</p> <p>方言を大事にしたい。家族で使うようにしている。</p> <p>いつまでも「しまくとぅば」が受け継がれてほしい。小学生の頃は方言を使うと先生に怒られた。</p> <p>NHKの外国語講座のように番組を作って報送した方が覚えると思う。</p> <p>介護の仕事をしている娘が職場でお年寄りの言った「しまくとぅば」の意味をよく聞くので教える事がある。</p> <p>小学生の時は「共通語を使いましょう」と大きな看板があり、方言を使うと先生に怒られた思い出がある。</p> <p>今迄、共通語だけだったので(聞く事はできるか使えない)話かけても孫達には通じない！</p> <p>普段、方言はあまり使わないので子供達も聞く事はできるが話せない。自分達の小学生の時は方言を使うとバツとして首から×マークをかけられた。そのため65才でも聞けるが、あまり話せないのが残念。</p> <p>同級生でもよく「しまくとぅば」を使っている人もいるので、家庭環境だったかも知れない。</p> <p>同じ年齢の人達とは「しまくとぅば」で話しができるので、楽しいから老寄りを孤独にさせないためにも若人に使えるようになってほしい。</p> <p>国言葉は大事だと思う。県外からの移住者にとっては難しい。</p> <p>きれいで丁寧な「しまくとぅば」を聞くとほっとする。</p> <p>ぜひ残してほしい(コミュニケーションで使える場がほしい)。</p> <p>正しい方言(敬語)を使えるようになってほしい。</p> <p>もっと普及してほしい。</p> <p>失くさないでほしい。</p>

年齢	性別	地区	内容
60代	女性	中部地区	きれいな言葉を教えて欲しい。
			たとえば三味線など方言が習える。
			お客様は年配の方が多く、方言を使うと親しみができます。普段の生活の中での方言は大切。
			方言は話さないと話せなくなるので、これからの若い子はますます話せなくなる。なくなるのはさみしいので学校とかで教えるようにするといいい。
			方言にこだわることはないと思う。現代は英語の時代なので、時代に応じた言葉を使えればいいと思う。
			学校で絵本の読み聞かせをしていた。子どもたちは興味を持って聞くので、こういうことから体験したらいいと思う。
			昔は方言を使うと起こられたので、今でも標準語を使う。でも方言でしか伝わらないニュアンスもあるので方言は残したい。
			唄で教えている。
			「しまくとぅば」は子供達にも教えて受け継いでほしい。
			学校の授業でも是非取り入れて欲しい！
			島の言葉はぜひ残して欲しい。
			普段より祖父母から教えたら自然に覚えると思う。
		南部地区	英語、中国語等を教えた方がいい。方言では仕事できない。
			学校で教育の場で教えてほしい。
			必要を感じない。
			積極的に分からなくても「しまくとぅば」を使ってほしい。
			自分が話せないので子供達に教えることができない。
			親との会話は全て方言で話しているので必要である。
			正しいと言われていることばを正確に伝えてほしい。公になっている言葉でも使い方がおかしい言葉もある。
			首里の方言を使える人が少なくなってきているので、ぜひ、きれいな言葉を復活させてほしい。失いたくない。
			使えるように自分もなりたい。聞くことはできる。
			「命どう宝」だと思う。
			失くしてはいけない言葉である。
			「しまくとぅば」は大切なので残して欲しい。日常生活でもっと使える様になると良い。
			親が日常的に教えた方がいいので親が使えた方がいい。
			「しまくとぅば」は分からない人がいる事を前提に発信して欲しいし、少数に対する配慮は必要である。
			皆が使える様になると良いと思う。
			皆が使う様にすればいい。
			もう少し早い時期から取り組めば良かったと思う。使う人が少なくなってからでは難しいのでは？
			自分達の世代もほとんど使えないので、これからの世代はもっと難しいと思う。
			地域によって（島内でも）違うので、会話は難しいが大事なので残したい。日常生活で使えるといいと思うが……
			現在は短縮した言葉が多く使われているので、正しい日本語に直した上で昔ながらのおじい、おばあがつかっていた、ちゃんとした「しまくとぅば」を使ってほしい。
介護の仕事をしているので方言は身近に感じている。			
ちょっとした言葉の表現は「しまくとぅば」が一番表現しやすい。ぜったいに、なくてはならないものだと思う。			
地域の人たちにまず、あいさつからやった方がよい。			

年齢	性別	地区	内容
60代	女性	南部地区	ウチナンチュの誇りとして「しまくとぅば」を大事にしていきたい。
			きれいな方言は残してほしい。
			敬語の方言を大事に伝えてほしい。
		宮古地区	「しまくとぅば」は使える人が少なくなってきてほとんど話さなくなっているの、あえて残す必要もない。
			話せる人が少なくなり、自分たちの世代も会話はほとんどできないので教えることはできない。話せるお年寄りとの交流等で伝えたらいいと思う。
			教える時、地域によって違うので、どこを主流にするか？ やはり島の言葉は残したい。
70代	男性	北部地区	みんなたくさん方言を使って欲しい。方言で話して欲しい。
			会う人の挨拶から始めた方がよい。
			「しまくとぅば」は絶対に失くしてはいけないと思う。沖縄の大切な財産です。
			沖縄全地域で「しまくとぅば」を忘れない様、是非皆が使って欲しい。
		中部地区	昔、方言は禁止されていた。戦争の時も方言を使ってスパイだといわれて連れて行かれた人もいて嫌な思い出があるが、時代は変わり方言を残してもいいと思うようになった。
			地域で浸透させる様に。NHKで芝居をやる。
			方言励行。
			大いに「しまくとぅば」を普及した方がいい。
			「しまくとぅば」を失ってはいけない。ずっと残して使って欲しい。
			使えるようになってほしい。（若い人が）
			各地域に残る個性ある「しまくとぅば」を残してほしい。
			同年齢の友達や高齢の親戚も少なくなり、めったに使う事もなくなった。共通語が普通になり慣れている。
			古典とか民謡の歌詞などを学んだ方がよい。いい言葉だったらTVを通じて教える事。
			消滅しないよう伝えていきたい。
			昔ながらの「しまくとぅば」の良い言語を守っていきたい。
			まわりで使う人が少なくなってきていると思う。戦後は共通語を使わないといけない風潮があった。
			子供達も「しまくとぅば」は分かるので、ほとんど教える事はない
			学校で強制的に教えるべき。
			隣の島とも違うので教えるので共通で教えるというのは難しいと思う。
			TV、ラジオで「しまくとぅば」を話す番組を作ること。小学校のカリキュラムに入れる。「しまくとぅば」週間を設ける。使う相手は同級生が多い。これからの若い人たちにとって方言は難しいと思う。
なくてはならない言葉。			
今後は失いつつある島のことばを育成して残すべき。			
ユニークでおもしろい。今は自然にしゃべれる人が少なくなってきたので「しまくとぅば」を残して欲しい。			
南部地区	伝統を残してほしい。方言の敬語は大事だと思う。		
	もっと使ってほしいと思う。		
	方言は大事ではあるが、しらすく使うのはおかしい。		

年齢	性別	地区	内容
70代	男性	南部地区	テレビ番組で「しまくとぅば」を使ってほしい。（単語でもいいから解説もしてほしい）
			孫達と会話がたくさん出来るようにしたいから、子供達にももっと使ってほしいです。
			地域によって「しまくとぅば」が違うので通じない事があり、話すのが難しい。
			方言禁止がなければ大人も標準語と同じように方言を話し、子供達もそれを聞いて方言に親しみを感じていただろうと思う。
			沖縄にしかない言葉なので、ずっと忘れずに子供達にも普通に話せるようになって良い。
			お年寄りと一緒に住むと自然と話せるようになると思う。
			皆が方言を使うようにすると良い。
			敬語が難しいので教えるのが難しい。
			老人ホームや官公庁等で丁寧語を使ったらいい。
			宮古地区
	女性	北部地区	学校とかで「しまくとぅば」の日を設けて使う様にしたい方が良い。
			年寄りしか方言が使えなくなっているの、若い人も使える様になって欲しいです
			うちな～口を若い人も使える様になったらいいと思う。
			失くしたらいけない。
			「しまくとぅば」は大事だから守ってほしい。
			たくさん方言を使って欲しいです。
			若い方も「しまくとぅば」（方言）を使える様になったらいい事だと思う。
			お年の方もうちなあ一口（方言）を使わなくなって来ているのでさみしく思う。大いに「しまくとぅば」を使って欲しい。
			方言は失くしてはいけない。
			孫が学校の行事で習って話しかけてくる。敬老の日とかに「しまくとぅば」の歌を歌ってくれるので嬉しい。
		子供達が「しまくとぅば」で敬語が話せる様になったいい。	
		世間の人をもっと使って欲しい。	
		文化なので堂々と使える方がいい。	
		テレビでCMを見て「しまくとぅば」は残してほしい。	
		子供や孫達と「しまくとぅば」で会話したい。	
		方言を使える環境作りが必要。	
		なるべく使うようにしている（特に子や孫に）。	
		まわりに「しまくとぅば」を使う人がいなければ方言の聞きとりや使う事は難しいと思う。	
中部地区	「しまくとぅば」が分からないと古典の歌詞の意味も芝居も理解できないから、次世代まで伝えないとダメ。		
子や孫達にもっと話かけたいと思う。			
いつまでも残してほしいが「しまくとぅば」を使っている人が少なくなっているとは思う。高齢の親や親戚くらいしかいないので。			
お年寄りと接する機会を増やす。			
昔のことも一緒に教えてほしい。			
独特な言葉なので閉ざさないようにしたい。子供たちに伝えたい。			
沖縄の心が伝わるのが方言だと思う。2500の言語があると聞いたことがあるので、ぜひ保存してほしい。			

年齢	性別	地区	内容
70代	女性	中部地区	日常的に使用していると次第に「しまくとぅば」が分かるようになってくると思う。
		南部地区	島ではよく使っていたが今はあまり使っていない。
			地域で使うようにする。子ども会とか。
			生活の中で使う事ははずかしくないように考えていく。
			インターネット（スマホ）等学べるよう。
			今の時代には「しまくとぅば」は世界には通じない。子供には教えることが難しい。
			子供達は県外就職に行く機会があるため共通語が大事と思う。
			方言を使う人がだんだん少なくなって寂しい。
			積極的に方言を使うようにする。
			子供達にあいさつ程度は使えるようになると良いですね。
			「しまくとぅば」は大切な言葉なので失くす事なく本来ある正しい「しまくとぅば」を使える方たちが講座等開いて広く伝えてほしい。
			もっと家庭内で使うことがあっても良いと思う。
			「しまくとぅば」でしか伝えられない言葉があるので残してほしい。
			お笑いの人を使う方言はよくわからない。
			ラジオ番組で民謡の時間を増やすことによって、方言に親しみを持つ人が増えると思う。
			ウチナーグチは是非残して欲しい。
			話せる人達が少なくなって来ているので伝えるのは難しくなっている。
			「しまくとぅば」を使ってほしい次世代に教えていかないといけない。
			方言で話してほしい。わかるようになってほしい。
			方言を普段から使うようにする。小さい頃は方言を使うなど言われてきたのに時代で変わるものだね。
			正しいきれいな方言を使えるようにしてほしい。
		地域行事に参加していく事。	
		地域によって違うから、そこが難しい。	
		方言はぜったいに残した方がいいと思う。きれいな方言で教えてほしい。	
		宮古地区	「しまくとぅば」は思いがはっきり話せる。深い感じがする。標準語で表わせない思いも方言だと表わせる。
		昔は方言札があり、方言を使うと罪金があったので今でも共通語が多い。	

問7 あなたは「しまくとうば」を聞いて、どの程度わかりますか？

1. よくわかる 2. ある程度わかる 3. あまりわからない 4. 全くわからない

問8 あなたは「しまくとうば」講座や「しまくとうば」関係のイベントに参加したことがありますか。

1. 参加したことがある 2. 参加したことはない

問9 あなたは人と話すとき、「しまくとうば」を使いますか？

1. 「しまくとうば」を主に使う
2. 「しまくとうば」と「共通語」を同じぐらい使う
3. あいさつ程度使う（ハイサイ等）
4. あまり使わない
5. まったく使わない

問10 あなたがしまくとうばを使う相手は誰ですか？（○はいくつでも）

1. 祖父母 2. 父母 3. 夫・妻 4. 兄弟 5. 子供 6. 友達
7. 親戚 8. 職場の同僚 9. その他（ ）

問11 あなたは、ビジネスや公共の場で「しまくとうば」を使ってもいいと思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. そう思わない

問12 普段の生活の中で「しまくとうば」は必要だと思いますか？

1. 非常に必要だと思う 2. ある程度必要だと思う
3. あまり必要でないと思う 4. まったく必要はない

問13 今後「しまくとうば」を普及させるためにどのような事をすべきだと思いますか？（○はいくつでも）

1. 学校の総合学習等での実施 2. しまくとうば講座を開設
3. 官公庁でのしまくとうば使用 4. 民間企業でのしまくとうば使用
5. テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR 6. しまくとうばスピーチコンテスト
7. しまくとうば検定試験

問14 あなたは子どもたちに「しまくとうば」を使えるようになって欲しいですか？

1. 是非、使えるようになって欲しい
2. できれば、使えるようになって欲しい
3. あまり、使えなくてもよい
4. まったく、使えなくてもよい

【問3】で「1. 子どもがいる」とお答えの方におたずねします。それ以外の方は調査終了です。

問15 あなたは家庭内で子どもに対して「しまくとうば」を教えるようにしていますか？

1. 積極的に教えている 2. 時々教えている 3. ほとんど教えることはない

ご協力ありがとうございました。

平成28年度
しまくとぅば県民意識調査
報 告 書

平成29年3月
沖 縄 県

